青韜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

十二月號目次

生きる事と貞操と　一　安田皐月
らいてう氏の第二論集發刊に就て　一〇　岩野清
せん切りの香（短歌）　一五　柴田かよ
習作（小説）　一九　牧野君江
繁忙（短歌）　三一　望月れい
はつ秋（小説）　三四　濱野雪

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

女郎花（小說）　四三　山田わか
母權（飜譯）　六一　エレン、ケイ
再び松本悟郎氏に（手紙）　七七　野枝
性的生活と婦人問題　八五　小倉淸三郎
雜感　一〇九　野枝
編輯室より　一一〇　野枝
表紙（自畫自刻）　奥村博

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

生きる事と貞操と——安田皐月

——反響九月號「食べる事と貞操と」を讀んで——

廿歳年間を年長者に扶養されて生きて來た私は、九月廿九日から生きると云ふ事には資本の極めて乏しい力乍らも、それでも自分の力を命の綱に生きる道を開いた。今迄お膳立ての整つた前に許り座る事に馴れた自分には何も彼も第一歩である、凡てが始めての經驗である。始めて食べるといふ事に打突かつたのである。私は私で生きなければならない爲に、私が眞實の生き方をしなければならない爲に自分の乏しい力を手繰り乍らも食べて行かねば安心して自分を眺める事が出來なくなつたのである。只其れ丈けで私は何の抗束も與へない極めて自由な私の周圍——今迄私はどれ丈け感謝して生きて來たかしれない——私の年長者を離れたのである。

私は私である。私は私の全責任を負ひたい。私は私の全責任を負ふて生きたい。一錢のお客樣でも一人でも多い方がと思ひ乍ら店に居る時でも、多町の買出しに拾錢廿錢を値切る時でも「私が私を生かす。私が生きて居る」と云ふ誇を感ずる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は私自身の隅から隅迄を私のものとして生きねば如何しても安心が出來ない。さうして生きる爲に私の店が生れた。

私は林檎や柿の柔い匂ひの充ちて居る店先で九月號の反響の中から生田花世さんの「食べる事と貞操と」を見付け出して私は少なからず血の濁りを感じた。口で生きる事と頭で生きる事と、二樣の生き方を考へると云ふ事は殆ど自分には想像も及ばない程愚な話だ。生きる道は一直線だ。少くも自分にはさうである。此の「食べると云ふ事が第一義的の要求であつて、自分一箇の操の事などは第二義的の要求であつた」と云はれた事は、殆ど醒めた女の叫び聲とは思はれない程自己を侮蔑した言葉だ。「自分一箇の操の事」を考へないで何處に生活があるのだらう。何で食べる事が必要だらう。自己を非つた姉が弟の口へ何を運ばうと云ふのだらう。葬り去られた姉から弟は何を求められると云ふのだらう。

生きると云ふ事は第一義の外にあるべき筈がない。

氏のさす操――昔から單に女に多く用ひならされたあれ丈けの意味に私は取つては居ない。又氏も共筈である。私はこれからも凡て恐ろしい廣義に用ひて居るのである――と云

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ふものは人間の、少くも女の全般であるべき筈だ。決して決して部分ではない。部分的寶ではない。これ丈けが貞操で、これからが貞操の外だなどゝ云ひ得るわけがない。人間の全部がそれでなければならない。女の全部がそれでなければならない。何物を以つても何事に合つても砕く事の出來ないものが操である筈だ。

世の中の弱者はよく過去を顧みてその汚らしく印された汚點を見出した時、正直に汚點を汚點其儘に見る事が出來ずに無理から塗り潰さうとする。でない迄も少しは綺麗な色に彩りたがる。そして自分の印して來た足蹟を如何にか斯うにか價値付け樣とする。尤も弱い人間の尤も醜い仕打だ。

自分は今迄氏の大膽な赤裸な告白にかなり引付けられ人一倍の敬意と尊敬とを拂つて居た丈け、この「食べる事と貞操と」の一文に對しては憮然として背骨の冷かさを感ずる。

「私は弟と二人で食べねばならぬ。あの時の私に取つては ― 私は眞摯にこの事を思ふのである――自分と弟と二人で食べると云ふ事が第一義的要求であつて、自分一箇の操の事は第二義的な要求であつた。然し私はどんなに苦しく痛ましく其撰擇した心の爲に悲しんだであらう。今私は死ぬのであると思つた。私は其苦しい盃を呑んだ。そして私は其苦悶から超越し樣と思つた。私は貞操の外に生き樣とした。それが其當時の幼稚で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あつた私にはあながち不可能な事ではない様に思はれて居た」

氏は斯う云つて居る。

そして幼稚であつた昔を今の氏はこの一文中の何處にも批判し、慙愧し、戰慄しては居ない。止むを得ない自然の出來事として平然と恠しまない。自己を賣つたと云ふ意識さへない。何處に「碎かれた事の貴い意味」があらう。碎かれた事に依りて氏の得たものは單に、「食べる事と貞操との事實に氣の付いた」と云ふ事丈けださうである。それに何の尊い意味があらう。第一義的要求を充す爲に第二義的要求を葬つた事が眞實なら打勝つた誇をこそ感じ得らるればとて其處に悲しむ必要はない筈だ。食べる爲に生きるのが第一義の要求なら其處に超越しなければ堪えられない苦悶のあり樣もない。

氏はたしかに人間として生きると云ふ事をまるで忘れて居た。否知らなかつたのだとも思へる。

人間の女の全般であるべき筈の懸換へのない尊い實の「貞操の外に」生きたり「貞操を超越して其處に自由に新らしく生きる自分の生活がなされたり」する事は、弱者の一時の云ひ逃れの言葉でない以上は正氣の沙汰とは受取れない話である。自分を侮辱した、女を侮辱したこれより大きい言葉が何處にあらう。單に食べる爲なら虫も生きて居る。生物は皆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自分自分食べて居る。然かも飢ゑに負けて自分の體の切賣をする程利口な動物が人間以外に何處に居樣。一切れの肉を求める爲に藝當をする犬でさへ、猶且つ一本の毛を殺がれる時に平然としては居ないではないか。

猶氏は「彼の時只一時でも保護を與へて呉れる一人でも持つて居たら私は貞操を全ふしたであらう」と云つて居る。何處に保護者の許に操を賣る賣女があらう。保護者の手を離れて一足も眞の道が歩めない人間に何で生きて居る必要があらう。これを醒めた女、私共の尤も近くに居る女の言葉として聞く私は、腹の底から涙の滲み出るのを覺える。何と云ふ情けなき淺ましさであらう。造物主が女性のどれもが凡ての男性を容れ得られる樣も創つた悲劇は此處にも演じられるのである。批較的理解を持つた、自覺したと自任して居る氏にして猶自分自身のものとして昵とホールドして行けなかつたと云ふ事はとても堪らない事實である。

此頃よく性の解放とか肉の解放とか云ふ事を聞かされる。

私は思ふ。

戀愛と云ふものは決して一時的の出來心などであつて堪まるものではない。決して甘いものではない。醉つて居るものでもない。甘い味に醉ひ乍ら苦い批判に向上すべきである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

然し世の中の人は自分の愛は自分以外に育むものゝないと云ふ事を忘れて居る。若くばその煩はしさに閉口して了ふのが多い。そして成るべく上面の甘さ柔かさに胡麻化されると知りつゝ目の前の樂の生き方を危つかしく生きて行く。がそれでも淡い乍らも御都合次第乍らぬ愛のあると云ふ事には他人の立入る權利はない。一瞬間でも凡てを忘れ盡す愛が閃めく以上は其處に女の尊い寶が費消されたと云ふ事に付いて第三者は何も云ふ事はない。云ふ事があればそれは寶が費消されたと云ふ事以外の筈である。

私共はよく慘ましい美風を聞かされて來た。止むを得ない事情と愛の交換を泣き乍ら行ふ美風を永い〳〵間見せられて來た。私はその事情の爲に全人格が犧牲になつて滿足に思つて居るのならそれは其人の生き方である。確かな立場に確かに立つて居るのである。私の一言半句も容喙する處でない。然し泣き乍ら犧牲の押賣を强ひて受けて居ると云ふ事は殆と塵溜の中に自分の體を棄てゝ居るのである。お話にもならない。動かす事の出來ない自分の所有物、自分を考へる事を忘れて親の爲兄弟の爲に針の尖程の愛もない結婚をして一擧一動虛僞の着物に自分自身を塗抹して生きて居る奧樣も世には貞淑を以て目される。入籍と、一人の男を守りて居ると云ふ事と、生涯の生活の保證を夫に持たせて居ると云ふ事と、そんな外面條件を幾つ玆べた處でそれが肉の切賣だと云ふ事に對する何の反證にもならな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い。

私はさう思ふ。單に肉だけを戀愛から離すと云ふ丈けでも貞操の浪費である。然しまだ貞操を手段に用ひない丈け肉其の物の中に打込んで了ふ丈け正直である。氏にして肉樂の虜になつたとか、又一瞬の戀愛の閃めきに尊い寶を萬人の異性に許したとしても私は氏でない以上、氏に對して何も云ふ事を持たない。それが單にパンとの交換問題になると——然かも氏は生活難の爲に貞操の自然に破れたと云つて居る——暗い木陰に紅白粉で心臟を塗り潰し乍ら明日の米代を男の袂に引くぢごくと何處に差別があらうと云はれた時氏は何と答へ得るであらう。其前に其當時氏は果して生き得たかと聞く者に何と答へられるであらう。恐らく氏の血液は亡びた氏の生命をとり巻いて徒らに骸を巡つて居たに過ぎないと云ふ事にも氣が付いては居ないのである。

氏の幾年前かの生活がさうであつた。

そして氏は今猶「私の碎かれた事は貴い意味があつた」と云つて居る。「あゝした行爲は止むを得ない自然である」と云つて居る。

「善惡の批判や道德の秤には懸けたくない」と云つて居る。今猶云つて居る。人間を女を自分を葬り去つて何處に道德があらう。何處に善惡があらう。根の枯れた植物は葉や花を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

云々する資格はない。不幸にして氏が又再び飢ゑに沈んだ時同じくそれを繰返すより外ないだらう。それが女と生れた氏には道がない事を公然云つて居られる處を見ると。兎に角女は尊い寶の賣食をする以上は安全に自分の生活細胞を生かし得ると云ふ事は隨分御都合のいゝ然し悲慘極まる約束である。又パンを口へ運ぶ事が生活だとすればそれ以上考へられない事も無理からぬ事。血の巡つて居る間は犬猫同樣パンの爲に生きねばならない人には止むを得ない事である。

これを讀まれたら氏は必ず「まだ〳〵前途有望な身が飢えに半生を葬つて了つたら何が出來樣。その償以上の事は先きの永い〳〵生活が充分して吳れるぢやないか」と云はれる事だらう。

私は根のない枯物の成長を信ずる事が出來ない。のみならず手段に依つて一時一時を胡麻化して行く生活の永い旅が如何程續いてもそれは眞の意味で生活と呼ぶ事すら出來ない事と信ずる。かけがへのない尊い自己を賣食ひする程寛大な人はあらゆる凡てに寛大の筈である。根の枯れ盡して居る事も知らないで只花を待つて居る。夢の樣に待つて居る。滑稽も此處迄來ると悲慘の極みだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人間の生きる道は必ず一直線で横から何物も入る隙がない筈だ。私は切にそれを思ふ。

飢えて死んでも私は私を生かさないでは置かない。私を握んで、私を引づつて行くものはそれこそ私以外にはないのである。

私は私を生かす爲に生きて居る。只其爲に生きて居る。

私は生田氏の一文に餘りに驚き餘りに呆れて、どうしても書かずには居られなくて書いた。九月號のこの記事が今迄何とも云はれなかつたと云ふ事丈けでも、
「どうせ女だ。女と云ふものは食べられなくなれば其那者さ」

と云はれて居る樣な不快を感ずる。

人間は一直線に進めばいゝのである。

途中のくだらない試みに引懸つて小さく納まつたり、それを塗抹したりする隙々も少し皮を剝いだ自分の體を眺め廻したら、いゝではないか。

終りに私は私である。

十八日夜　（完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らいてう氏の第二論集發刊に就て——岩野清

圓窓より以後のあなたの評論が出版されるに就て、私に序を書けとの御手紙を下すつた時は、私は心安く御受しました。然し二三日してから考へ直した時は、大變な重荷を負ふたやうないきぐるしい氣持がしました。と云ふのは、私はまだ序文と云ふものを一度も書いた事がない。のみならず私は近來つく〴〵自分の思想の貧弱なことを感じて氣恥しい氣がしてゐますので、暫く默つて自分の力を貯はへることに專心したいと考へてゐます。

もし序と云ふやうなものを書くとすれば、少なくとも、其書物に著はれてゐる著者の思想を公平に批評してみたいと思ひました。

が、今瀕死の病床にゐる姑を抱えて、たえずあわただしい不安な日を送つてゐる私には、とても落付いて考をまとめてゐるだけの餘裕が心に得られません。

こんな狀態にある私ですから、どうせしつかりしたものが書けないのにきまつてゐます。

さうしてあなたの期待にそむくのもいやですから、いつそお斷はりしようかとも思ひまし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。

然しさうはつきり御返事しない中にとう〳〵お約束の日限がきてしまひました。でほんの責任のがれのやうですが、又此書物の序文としてはそぐはないかもしれませんが、私が今日のやうな思想を抱くやうになつた順序、つまり私の過去の經歷の一部を書かして頂かうと思ひます。

私は泡鳴氏と同棲する前に一人の愛人を持つてゐました。其當時の私は、今から思へば空想家でした。戀愛は絕對永遠に變らないものだと信じてゐたのです。肉を離れた靈のみの戀愛が、最も淸い、最も純粹なものだと考へてゐたのです。さうして四五年續いて來たのです。私は其當時肉にふれないと云ふことを非常に誇りとしてゐました。然し私は何となく物足りなさを感じ始めました。男のすべてを獨專してゐないと云ふことに不足を感じました。さうして肉のともなはない戀愛の力の微弱なものだと云ふことを知りました。私が靈だけの力で男を獨專しようとすればする程、男は私から離れました。さうして肉の關係のある方へ引つけられてしまひました。この時私は始めて今迄の自分の空想をさとりました。自分が人間でありながら、肉を卑しんでゐたために、自分の戀が結局遊戲になつてしまつたのだと云ふことを知りました。靈だけでは本當に男を引つける力はないものだ。

昨日までの自分の考は、人間と云ふものを忘れた空想に過ぎなかつた。と云ふことをしみじ〴〵覺りました。同時に又愛の永遠不變など〻云ふ夢からさめました。

丁度私がこんな事を考へてゐた時、泡鳴氏から「新自然主義」をもらひました。さうして氏の靈肉合致說、及刹那主義の人生觀に同感しました。

私がまだ泡鳴氏を知らなかつた前に、日本の女性の虐げられてゐることに氣付いて、婦人達を覺醒させるために或る運動を起しました。それは豫てお話しした治安警察第五條解禁の請願です。

然し私の人生觀の變化は、只表面上の婦人の地位を高めるだけでは、眞の覺醒をすゝめるのに不足だと思つたので、泡鳴氏と同棲後中止してしまひました。

それから三年後です。あなたが婦人の覺醒を主張なすつたのは、私は其時自分で永い間考へてゐた事を、あなたが具體的に見せて下すつたのだと思ひました。さうして間もなく、思想すると同時に實行の方面の運動も起るだらうと期待してゐました。

嘗て田中王堂氏が書齋より街頭へをお出しになつた時に、王堂氏は筆では街頭へと云ひながら、御自身は一向街頭へ出ない。と誰かゞ評しましたが、あなたも矢張圓窓の中へ閉ぢ込もつて一向街頭へ出ませんでした。私は常にあなたに對してそれを物足りなく思つて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゐました。

私は戀愛が靈と肉と相ともなはなければ力が微弱であると同樣に、すべての運動も、思索したり書いたりするだけでは、人を動かす力が遲いものだと考へてゐます。

尤もあなたも青鞜を發刊なすつた當時、或は圓窓をお出しになつた時分から見れば、隨分お考へが變つて來てゐられる事は認められますが、どちらかと云へば、まだ思想に比較して實行の方が少し遲れてゐると私には思へるのです。勿論これはあなたの內生活の實行をさしてゐるのではない事は云ふまでもありません。

少し酷な云ひ方かもしれませんが、あなたが內面から婦人を覺醒させることは可成力をつくしながら、形式上から婦人の地位を高める運動の方を輕んじて、少なくとも未だ早いと思つてゐられるのは、丁度私が、第一の戀に、靈を重んじ過ぎて肉を卑しんだやうなものではありますまいか?。

私は時があれば、法律上に於ける婦人の地位、妻及母の權利までも改めるやうにしたいと思つてゐます。かう云ふ運動も、婦人問題を取扱かふ上に於て、必ず起さなければならないものだと信じてゐます。

私からあなたに望む事は書齋より街頭へ出て頂きたい。頭と同時に手を動かして頂きた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いと云ふ事です。

序文としてはへんなものが出來上りましたがこれは私の平生あなたに對してもつてゐる感想と見て下さいまし。

（大正三年十月廿日午前四時）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

せん切りの香——柴田かよ

凍（いて）大根ぽんと投ぐれば
うつろなる音のするなり
何かさみしき

ひよどりは南天の實を
はみつゝもちゝと唄へり
晝のしづけさ

うみたての卵のぬくみ
はつとして落せば
更にさはぐ鷄かも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

芋洗ふ水車は
ゆたに廻り居り
もの靜けさの身に泌みわたる

川べりのえのころ柳
白々と光れり
沈むこゝろのまへに

織かけの絹縞
藍にまみれ居り
姑はおせつに行きてあらなく

舅はまた
薪を出しに行くといふ

この風の音きくもわびしや
うらかなし
「岐阜の嫁御」といふ名すら
既に幾歳よび古るされて

冬の夜は
賭博のわれし噂にて
襟足さむく更け渡るかな

買ひためし石灰だはら
うづ高く積まれ居り
陽の靜かなるかな
生綿よる音聞き居れば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

犇々とねむけせまれり
日向の莚

うす甘きせん切の香の漂へる
日向に出でゝ
あくびをすれば――

榾たけば文福茶がま
白々と湯氣を吐くなり
雪降りに降る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

習作　　牧野君江

笛と合せて小人數らしい絃の音が、街から街へ囃し立てゝあるく様々な鳴らのゝ中に、落人が人目の多い明るい世界をしのび落ちて行くやうなしめやかさで流して來た。

それを丁度、余所の國のことでゞもあるやうにやゝ遠音になつた笛の寂びた音を、和子は忙然ときゝながらまた眼を瞑つた。

瞼が少し熱くなつて來た。

「まあよく眠る人ね」

側にゐる須磨が笑つたやうな聲を出した。そして和子が眼を開いて顔をむけるど、極り惡るさうに兩手で鼻と口とをかくして眼ばかりで微笑つて見せた。和子もニコ〳〵しながらあとどうするか見てゐた。

「あら、そんなに見るのいやよ」慌てゝ摺り寄ると、夜着の袖のとところに顔を埋めてしまつた。和子は腕のところに壓される重さを感じて苦しいやうだつた。須磨はいつまでもさ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うしてゐて顏を上げやうとしなかつた。

「さあお退き、私座つて見るから」

しなやかに廻つた紫地の衿に吸ひ込まれるやうにくつきりした頸筋をながめやりながら和子は快く笑つてから云つた。笑つておいてその笑聲が虚の瓶でもたゝくやうなせいのないのに氣がついた。

「不景氣だわ、今日のやうな日に選つて寢てるなんて、あらあの囃子よ若ちやん等の連中、いゝわね」。須磨は血の上つた顏をして立つて行つた。

障子を開けると、庭一杯西日があたつて石の間に伸びた石蕗が花をつけて日向に黄色くちら〳〵してゐた。少し染めかけてきた淸玄にも南天にもうす白く埃がのつてゐる。塀の外を通るしつきりなしの下駄の音も人聲も遠ざかつて行く皷の音頭も、高く晴れ上つた秋の空は一つ一つ響き反すやうであつた。

執念くよくならぬ胃病でとう〳〵寢てしまつた和子は、現に住んでる世界がすつかり常と氣分を變へてしまつて、人々は踊つたり、はねたり、唄つたりしてるのに、吾身はそれに浮かされるでもなく、自烈つたがるでもなく、それかといつて余所にしてすねてるのでもない、すなほに三四日前からぼんやりと寢てるのであつた。手を入れてあへるやうな心

地の惡い胃の痛みが少しでもとれると、時拍子もなく二度だきの粘々しいお粥を美味しがつて食べてはあとは、激しい痛みに惱まされて疲れ切つた體はすや〳〵眠るばかりであつた。それに現在的な和子はよくなつてしまへば散々苦しんだ頂上の時のことなんかはまう何ともなかつた。結句三日でもさうして寢てゐたのがもの珍らしくもあり心安らかでもあつたやうに思はれた。

それが今日須磨が來てくれると、急に室の中の空氣が動いて深い森の中を歩いて朽葉を踏みしだくしつとりしたうす暗いやうな靜寂が、みんな須磨の聲やものごしや着ものゝ色頭髮の艶に吸とられてしまつた。そして和子には反つて苦しいやうなぢれつたいやうなうら淋しい心が湧いて來た。

和子は急に今日の祭に須磨と一緒に街を歩いて見たくなつた。葩のやうに美しい唇にあてゝ吸ふても見たいやうなものやわらかな少女の持つてる心に和子もしばらくでもいゝ溶け合つて見たい。そして町中にみちた派手な色取や愉樂な鳴ものゝ響に醉ふやうに遊び歩いて見たくなつた。

「まう起きてもいゝにはいゝんだけど」

「さう」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「今朝からどこへ行つて來たの、伯母さんと一緒？」

「えゝ、母さんとそして婆やも、あのね――昨晩あの人にも逢つたわ」

須磨はやゝ離れた机によりかゝつて置ものゝ金彫の牛かなんかいぢくつてゐたがかういつて少し顏を染ため」

「ふうん、あの人て春夫さん、うれしかつたの」

「あら違ふわ、あたしそんなことぢやないのよ」

須磨は眞赤になつた。和子は不快な氣がして枕の下をさつぐて釵を拾ふて頭髮の中へぐさぐさ入れた。

「そんなに大切にしなくても、しまひまで云つておしまい」

「まあ酷い、あたしまう何も云はないからいゝわ、いゝわ。」泣き出しさうになつて机の掛布を撫でまわしてるのを見ると和子もそれぎり默つてしまつて須磨の横顏をしげ〳〵ながめてゐた。泣きさへしなければまつと何かいつてやりたいいやうな忌々しい氣がした。

甥の春夫といへば、この春頃に須磨の養子のことで親類中に談合ひのあつたことから、和子はこの頃須磨を見るたびに丈の高くなつて行くのも口のきゝやうの上手に大人びて來たことも殊に、まだ態と小供らしくして僅かばかり揚げた肩揚のあたりに似つかしくないほ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

どの美しい女らしさの出來たことに氣をつけた。そしてやがては變る頭髮の形などにも時には思ひ及ばれた。

「姉さん――。」

まう何も云はないといつた須磨はとう〳〵泣き出した。

「姉さんはまう誰でもきらひになつたんでせう、そして私も――。」

「あなたも。」須磨の泣き聲のおろ〳〵聲の中にもきつとしたやうなのが和子は不氣味だつた。

「私もきらひになつたんだわ、解つてるわよく。」

「ふうん、どうしてそんなこと解るの。」

「人間がきらひになつたつてこの間きいたわあたしだつて前のやうにはちつとも可愛がつては下さらないし、そして――。」

「そしてどうしたの、どうしたの、そんなことといふのはおよしよ、きけば私もいやだから。」

賢い須磨はまう自分の胸のうらまで見透してるのだと和子は思つた。いら〳〵しながらもとても自分のやうな淋しい身はもはや須磨にすら向き合つてることが出來ないと思つてひどく寂じかつた。親類同志、和子にはそんなことはどうでもよかつた。たゞ一二年前か

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ら須磨に情人のやうに慕はれて來たことを思へば喩しい心はさげしまれたが、どうにも離れて行く須磨を惜しからずにはゐられなかつた。しばらくでも美麗な須磨を目の前に見てゐたいとはいつも思ふことでありながら今は見てるには心り苦しさに耐えられない。少し眠りたいからといへば須磨は赤い目をしながら案外すなほに立ち上つた。けれど別におこつてるのでもなく相手の機嫌を惡くしたことを心配してる樣子は和子にも暖く感せられてゐた。和子の褥の裾に立つた後姿の芭蕉の襖の影に消えた時和子は須磨の名を呼んで見た。聞えなかつたかそのまゝ行つてしまつたがものやはらかな氣配が殘るやうな氣がした。洗朱の帶の色が溶けて流れて室の中に一杯になつた。今頃は茶の室の長火鉢に和子の母親と向き合つて面白く余所事でも談してる樣を思ひ浮べてうら淋しかつた。そしていくら母親の前に居てもよいから矢張あのしつとりした眼を伏せてこちらの室を氣にしてゐてほしいと思つた。

氣急しなく暮れて行く中を床を出た和子は中働を捕へて久し振りに鏡臺の前に座つてもつれた髮を梳かせた。水のやうな鏡の底の青白い顏を急しくゆれる朧の灯に見つめながら香油にしめつた毛髮が櫛の齒を脫けて後に引かれるたびにかすかな音を立てるのを快げにきいてうつとりしてゐた。しばらくして出來上つたぐるり落しの薄い輪の銀杏返しを合せ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

鏡に寫して見て好みとはいへあまり質實に結びすぎたものだと思つた。後のうす暗がりに椅を拭いてる女にさう云つてやりたいと思つたが、思つただけで何も云はなかつた。

ぽつと淡紅い艶々した顏をして湯から上つた和子はまだ何處かたよりないふら〳〵するやうな氣持で家の中をもの珍らしさうに歩いて見た。父の室に行くと今客人の立つたあとらしく茶器や座蒲團がそのまゝになつて人影はなかつた。和子はのそりとそのまゝ座蒲團に座つて、寢てゐた間に更つてゐる床の誰かの句の半懸をながめてゐた。すると和子を見付けた兄の小さい子供達が叫びを上げて這入つて來た。そしてみなれしさうに和子の手を引つ張つたり肩にのしかゝつたり胸にとび付いたりした。和子もニコ〳〵しながら一人一人の名を呼んで膝の上に腋の下を持つてだき上げた。そして一番小い女の子の番になると立ち上つて室の中をぐる〳〵廻つた。

「はまちやんおりこうさん。」小供の乳臭い前掛に顏をあてゝ和子がこんなことを云ひながら椽側に出ると、腰のまはりにすがりついた小さい姉さん兄さん達は

「あばちやんあたいは、あたいは、」と催促した。

「あなたもあなたも」

和子は少し苦くなつた息の下から一々優しい返事をしてやりながら、廊下のうす暗がり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を子供達をつれて歩いた。窓の硝子を透すと前方の建ものに劃られた空には星が降るやうにきらめいてゐた。

「花火、花火、」小供達の中の誰かの聲がした。先刻から窓じきりにおとがひをのせて屋根の上に夢のやうに散る火の子をぢつと見てる子もあつた。和子が頭部の格好でそれを中の男の子と思つて名を云つて見ると違つて居たのでみんなが一度に笑つた。和子も子供達に負けずに笑つた。

賑やかな子供のあとから輝かに電燈の花笠の下つた室の前に來ると、今食事をしまつたらしく父や兄の立つて行くところであつた。

和子を見ると、父親は默つてたが兄が「まういゝのか」と和子の顏の側に顏を持つてきて低い聲でかう云つた。そして深い色の眼を和子の抱いてる女の子に移して出て行つた。厨に續いた中間の板の間に、やゝ燈を遠のいて何かたちのぼる湯氣の中に兄嫁の大きな髷が動いてゐた。快い室内の熱氣の中をそこらに漂つた甘辛い煮物の香や脂濃い露汁の香が幾日振に和子の回復した食慾を誘ふた。

大勢の甥姪達は各々さりかへられた白いきれいな前掛で食卓にならばせられて食事をはじめた。子供達は割合に靜かにしてゐたが何事も吾心のまゝに振舞ふ樣子は見てゐても呑

氣さうであつた。傍についてる小女が箸の先につけた飯粒を口に入れてやる度に一度一度なげ出した脚を持ち上げてとん／＼云はす子供も、食べたくもなんともないのに遊び半分に食べてるらしいのも見てゐれば、子供好きの和子にはみな可愛いと思はれた。

和子はいつもの見當へ座つて、目の前におかれた烝魚らしいものをとり分けた四角（すみ）おとしの見なれた小鉢の形をぼんやり眺めてゐた。

「まあ何もないんですよ、お祭だつていふのに」割つたやうなきれいな兄嫁の聲が耳の傍でした。和子が顏を上げると子供達の中に須磨も來てゐて自分の方を見て笑顏してゐた。

「まだゐたの、さう私まうとうに歸りなすつたのにきめてた」

といへば

「あまり長湯だつたからでせう、あたしこれ頂きますの。」とかなんとかあとは傍の兄嫁にいつて行儀よく食べはじめた。

「姉さん今日はお父樣にお客樣つゞきでしたわね、お忙しいとこ寢てしまつた。」

和子は兄嫁にこんなことをいつて、須磨が自分に何かいふのを待つてたが、見ると須磨は何一つ考へてることのないやうにのどかに食べてゐた。そのうち小供達を中心にして食後の室の中は男氣を交へない氣輕さでまたしばらく賑つた。和子もまき込れるやうに笑つ

たり大きな聲を出したりしてしまつた。

その間にも戸外の賑ひは追々増してきたらしく通りからは少し奥まつたその室にゐても神樂囃子の笛などよく聞えて來た。その時も行列の樂隊が椽側のすり硝子を震すやうに聞えた。

それから一時間ばかりの後、和子は兄嫁に誘はれて須磨とそれに泰とふ食客が兄の三男を負つて五人連、遠くは行き得ないでそこらを歩いて歸つて來た。夜が更けて來るとさすがに冬らしい風が群集の頭の上を吹き渡つた。花瓦斯の映しい光に照されてやゝまばらになつた人波を分けて、ある建ものゝ構内に出るとそこには菊花の品評會があつて芳しい秋の香が冷く野を行くやうに香ふて來た。

和子は誰よりも先に疲れてしまつて僅か一町か二町の道を悲しいやうにとぼ〳〵した。それでも兄嫁と泰とは人通の悠々したところに來ると子供をあるかせたりなんかしたので後れ勝になつて和子は須磨と二人でとある橋の上まで來てしまつた。

出かけから重りをつけたやうな和子の心は賑かな人込を潜つたり、明るい電飾の下に佇んだり、きれいな小娘の手踊を見たり、熱狂した囃子に追かけられたりしてる間も、自分獨りはそれ等の周圍とは何の共鳴もない反射もない深い底に重い空氣の沈澱した陰氣な境地

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を別に拵らへてその中へ自分が墮ちて行くやうな憂欝を感じてゐた。それに傍にゐる須磨がまた和子の何も彼もを知り拔いてゐるやうに遠慮らしい無言を續けてゐるのも倦く悲しげに和子には思はれてゐた。

橋のの上で遲れた兄嫁達を待ち合した。川は水も瀨も柵も石垣も何も見えない。只一色の暗碧に兩岸の灯を赤靑黃白にうつしてふるへてゐた。和子は夜露に濡れた欄干の粗い木目に片頰をつけて橋脚にあたる微な水の音をきいてゐた。水を渡つて響いて來る街のどよめきはたび〳〵それを消してしまつた。和子の胸はあるこし方のことを思ひ出すために恐怖に慄えた、思ひ出してはいけない忘れてゐるので自分は生きてゐられるのだ。思ひ出したら自分は生きてはゐられない。悲しいともなつかしいともいたましいとも云ふて云へないこの心持を少し長く續けたら自分は死ぬかもしれないと思つて見た。見ると須磨は同じやうに水面をながめてゐる。自分が今思つてる事を須磨は知つてるのではないかと和子は驚いた。知つてる筈がない、さう思ふ安堵と共に和子の胸には夢を引くやうにかつて自分が或家の家族の一人となつてその家に住み親んだ三年前の思出が續けられた。それは初夏の同じ祭の夜その家族の人々と和子も共に街を歩いたのであつた。自分を除いたかの家族の人々は今夜もまたあの夜のやうに祭を見に歩いてこの橋を渡つたかもしれない。自分が

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

踏んでるこの橋板をかの家族の人々は踏んだかもしれない。

和子はなつかしいと思ふ心にすぐ悲しさを感じてまた戰いた。二三歩退いて夢のやうな弧燈の光に、白く土の乾き付いた橋板を事更に踏むやうにして歩いた。和子が歩き出したので須磨も默つてついて來た。

「今夜はあなたに云ひたいこと云つて聞いて貰ふかしら、こんな日を惡日さいふのだ。」

「さう、きいてもいゝわ、そしてまう氣にしないがいゝわ、なんでも。」

須磨は豫期してたことのやうにしみ〴〵した返事をした。そして和子がそのまゝ橋を渡つてしまふのに默つていて行つた。(完)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

繁忙

望月れい

ふりしきりたる雪やみて
太陽(ひ)のさしそへる街頭は
ことさらしらべたかまりて
さしせまりたて聯弾(れんだん)と
うちつれ、いだき　あふれわく
生の象(かたち)と　香と　いろと。

乳(ち)の根(ね)ゆらぐを小走りに
われも急げり、せはしなく

ちまたのはしに雪を食(は)む労働者あり

唇は濡れて、うるみて、こゝろよく
裾かろく　うち笑ひつゝ語り行く
他邦の若き少女あり
手にせるきぬのゆら〳〵に
にほひあふれてやはらかし

うちつれいだくものゝ象
たゆみがたなき繼弾よ。

夜の電車

つゝましく夜の電車に身をおけば
ひとのけはひのあたゝかく
青天鵝絨と身をつゝむ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

やみ路の柳　ちまたの灯
窓にうつるを見るさなき
いきのいのちのひとつれよ

いま別れこし君が上
ひた思ふ身もゆられつゝ
あかきともしの下にあり。

はつ秋――濱野雪

ほんとうにもう涼しくなつた。さう思ひながらお蔦は自分の素足をしみ〲ながめた。だいぶ黄ばんだ簾越しのタレグステンのあかりが、ふつくらとした踵までうす蒼く冷く見せて、さつきとくさで磨いた爪ばかりぽつちりと紅かつた。

『あたしの面、今夜はどう』

『きれいよ、まるで透通えやうに』

『でも冷たさうでせう』

『なあぜ』

『なぜでも』

お蔦はふつとほゝゑんで、そして、両手で頰をさすりながら、おきよの結綿をまたほれぼれと見入つた。なんていゝ色の鹿子だらう水淺黄といふのか、しと〱小雨の降つた朝の朝顔に、たつた一輪あゝいふ色のが咲いたつけと思ふそばから、こないだ二長町で見た

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

芙雀の羽衣の立兵庫にかけてあつたのも、あれとそつくりな鹿子だつたと、なつかしく思ひかへして、ふうわりとふくらんだ髷をすくきれいな耳朶をうつとり眺めてゐた。

『どうしたのよう、おつやちやんは』

『だつてあんまりいゝ恰好なんですもの』

『そうを。ありがと』

ふたりは一緒に笑つてしまつた。忘れてゐた團扇をはた〳〵と動かすと、袂のかげから二三匹あわてゝ舞ひ出た蚊のめつきり細つたうなりが、なんとはなしにもの哀れにきこえた。秋といふ名は蚊や蠅をさへも憎いものとは思はせずなつた。人もこひしい。おもひでも美しい。自分もしみ〴〵なつかしい。

お蔦は胸を反らして空を見上げた。宵闇の高い空の奥にうつくしく星がちらばつて、おしろい刷毛で一刷毛さつと撫でたやうな天の川が、煙つたやうに、霞んだやうに、眉の上を流れてゐた。

『もう秋だものねえ』

しんみりとした調子で言つて、團扇のきやしやな柄をまさぐる指先きを見て、おきよはにつと淺いゑくぼを見せた。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『いよ〳〵その團扇ともお別れね』

『あら』

　さつとあからんだ頰を、でもうれしさうな色が掠めた。それなりだまつて眼をとぢて、梅雨晴れのそよ風の淸々しかつたその朝々をおもふた。

　お蔦は店との仕切りの淺黃のれんの傍で、おさらひに着る浴衣をせつせと縫ひながら、折々その手を休めてはのれんの蔭から白い面を覗かせて、うれしさうににつこりした。そこらでは父親や職人が五六人圓座になつて、煙草吸ふ暇もなく團扇をこしらへてゐた。生々しい青竹の香がたちこめて、バサリ、バサリと骨をしごく音、ピタピタと刷毛を使ふ音に交つて、誰やらの鼻唄が忍ぶやうに漂ふ。背丈ほども網代に積上げたうしろの壁には、古い煤けた繪ビラが二三枚、昔の夢のやうにこびりついてゐる。お蔦は前齒で糸をくわへたまゝ、またこつそり覗いて見た――。

　かうした朝が幾日か續いて、とう〳〵卵黃色の地に三色ほどの淡色で蝶を散らした、配り團扇がみんな仕上つた時、お蔦はあるやるせなさを交へた寂しいうれしさをもつて、いつまでも〳〵眺めてゐた。鮮かな朱ですつた吉右衛門といふ字をそつと撫でたりした。

　お蔦はほんとうに別れる時がきたとおもつて、ひえ〴〵と裾にまつはる秋をさびしんだ

夏やせをせぬ代り、もう一日ひざひに落髪して、鬢尻のこゝろもち薄くなつたやうなのもこゝろぼそかつた。

ふと裏座敷の方から低い水調子の二上りがきこへてきた。眼を上げると、暗かつた小窓に灯がさして、きれいに圓めた頭と、總髪の粋な丸髷に結つた頭とが、障子いつぱいにうつゝてゐる。

『お師匠さんがいらしたのでせう』

『えゝさうよ。――さびたいゝお聲ね』

『ほんとに』

耳をすましてゐたおきよは、指で調子をとりながらかう答へた。眼が見えなくなつてもきれの長い眼尻が昔を偲ばせて、いつも身ぎれいに小ちやく座つて、爪弾きに唄ふ小唄の數々に、浮世の汚い執着の何も彼もをたゝみこみ、さびしく、美しく日を送る悟りすましたやうな生活が、物の本でゝも見るやうになつかしく思つた、やつぱりおしやはせなんだと考へて、お蔦の萌黄博多の半幅帶のかけをひつぱつた。

『おつちやんのおばあさんはおしやはせだわねえ』

『さう思へて』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お蔦のころは濡れてきこえた。

カラ〳〵と吾妻下駄が冴えて鳴つて、柿いろの袋に入れた三味線を兩の袂で抱うやうにして、小刻みにあるいてきた八重吉が、口紅の濃い面を振向けた。

『今晩は』

『今晩は』

『およんなさいな』

『ありがと』

お蔦に近くすらりと立つて、嚙みさいたほうづきをそつとはきだした。

『どちらへ』

『そこの貸席まで。今夜はすけなのよ』

このひとの癖で。眼を細くして首をかしげると、片手でちよつと衣紋を直す。生え際を剪揃へて狹い富士額に作つて、銀のほそものをかけた吉原銀杏に結つたのが、ちと老けただけ仇ツぽく見えた。緣臺のはしに淺く腰を下して、物思ひもなげにほゝゑんだ。

『お鈴ちやんのことごぞんじ』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『いゝえちつとも』
『またね、數寄屋町からお出なさるんですつてさ』
『まあ』
ふたりは思はず眼を見合せた。嘘であつてほしいけれど、でも奈何やらと覺束ない思ひに、八重吉の口紅をじつと見詰めた。
『お鈴ちやんはねえ、『もうあきらめたの』つて泣きもせずに、きれいにお化粧してらしたけれど、でも睫毛が濡れてたわ。不運なひとねえ』
三人の胸の中を思ひ〳〵の幻がとほりすぎた。お針ともだちのなかでもいつち器量よしで、おとなしくつて、人好きがしたのに、いろ〳〵な事情から藝者になつて、一年とたゝぬ間にひかされて、お飯事のやうな世帶を持つたと聞いたのはまだつい此頃だのに、もうこんな悲しいたよりを聞かうなどゝは、誰も思ひかけぬ事だつた、『あきらめた』といふ言葉に含まれたさま〴〵の悲しい入譯も、大方それと思ひやられぬでもないものを、どんなにお鈴ちやんは切なからうと、ついほろほろとあつい淚がにじむだ。
とりわけお蔦には、いつまでも忘られぬなつかしいおもひがあつた。それは去年のお正月のこと、恰度お蔦初めの夜だつた。お蔦はひとりよんぼり隅に引きさがつて、床に投げ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さした寒椿の眞赤なのを眺めながら、騒々しい笑ひごゑにからまれた美しい女を折々そつと見遣つた。藝者になつてからのお鈴ちやんをはじめて其處で見たのであつた。お蔦は上氣した頬をうつむけながら、胸いつぱいに言ひたいこと、きゝたい事をくりかへしてゐたのだけれど、お鈴ちやんはおしまひまで男の人の群から脱れる事ができなかつた。ちよい〳〵笑つた眼と眼で物を言つたばかり、そのうちに迎へが來たので、泣きたい思ひをかみしめてお蔦はさびしく別れてしまつた。その時、お鈴ちやんは『濡れぬ先』と『くせつ』を唄つたが、少し加減がわるくて家へ歸つてゐたとかいふので、剃刀で時々殺ぐといふ位たつぷりある髪を櫛卷にして、黒襟つきのお召の上に黒ちりめんを重さうに羽織つてゐた。少しふるへる清んだ唄聲を、お蔦はどんな思ひできいたらう。まぶたはいつの間にか濡れてゐた。ぼかしたやうななつかしい眉と、『すつかりはうたになつちまつて』と、はにかんだやうに笑つた折の俤とが、えりつけたやうに胸の底に殘つた。障子の外は凍てついた月夜だつた――。

お蔦は悲しく吐息した。ある折きいた占者の言葉がまざ〳〵とおもひだされた。

『もみあげが耳よかも長い女はね、みんな緣がうすいんですつて。しろとでもくろとでもきつとそれで泣かなくちやならないんですつて。だからお鈴ちやんも……』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いひさしてそつと自分のをなでゝみると、ふたりも同じやうに手を出して、言合せたやうにさびしく笑つた。

『あんまり器量がよすぎて苦勞するよかも、あたしみたいな方が却てしやはせなのかもしれないわ』

八重吉はわざとはしやいだ聲を出して、もとのやうに三味線をじつとだいた。

『ほんとにさうかも知れない』

カラ〳〵と冴えた下駄の音が左へ切れたとき、お蔦はかなしくつぶやいた。

『八重ちやんみたいにいつも笑つて暮せればねえ』

『でもあたしはなきむしだから』

『あたしだつて』

おきよはふつさだまりこんで、指と指とを絡んで睫毛を伏せた。

裏ざしきの三味がほそ〳〵とつゞく。

遠い遠い彼方を二ころばかりお稻荷さんがよんですぎた。

『八重ちやんこんやは何を語るつてつて』

『鳴戸の八だつて』
『あれであのひと、ほんとに師匠になるつもりかしら、ねえ』
『さあ』
ふたりはまただまつてしまつた。人それぞれのなりゆきといふ事がしみ〴〵と思はれた

小窓の障子のかげが一人になつた。お蔦はほと〳〵と輕く叩いて『おばあさん』とよんでみた。おきよもそつとなかを覗いた。ならぶと結綿だけ高かつた。
『きこえないのね』とくるりとうしろをむく拍子に、びん櫛がはたりと落ちた。つや消しの朱が角の所だけすれたのをこすりながら、お蔦は細く唄こゑを合せた。ちま〳〵と黒い脊を半分見せて茶だんすにもたれて、おばあさんは忍ぶやうに爪彈く。座ぶとんの友禪ばかり華かに浮いてゐた。
泣いてわかりよか焦れてのきよか、アヽ、むかし思へば見ずしらず……
かううたひすてた時、おきよの肩に額を埋めてお蔦はしよんぼりすゝり泣いた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

女郎花——山田わか

一

それは朝から蒸し暑い日であつた。相州の或る海邊の町に居る姉から、義兄危篤と云ふ電報を受け取つたTの妻のおきわは其の日の正午近く、唯一人、驅て出やうと云ふ隅田川汽船の××行きに乘つて居た。客はもうすッかり乘り込んで了つて、船頭等がにじみ出る汗と塵埃に塗れて、田舍行きの荷を傳馬船から汽船へ投げるやうにして積み込んでゐる。おきわは、洋々たる隅田の流れの上下、そこを往來する船や永代橋の雜沓を眺めたりして、今、自分が何のためであれ、久しぶりに騷々しい都會を離れて、チョッとでも海に泛ぶかと思ふと彼女の心は喜び震へて止まなかつた。

* * * * * * *

八月の午後の强烈な太陽の光は燦爛たる無數の黃金の玉を穩かな海面へ撒き散らした。きら／＼する光が互に映發して、海の上はまるで燃えてるやうだ。見て居ると眼が痛くな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つて來る。と忽ち其の黄金の光は踊つて居るやうに見える。大波小波の奏する輕いさわやかな音樂に連れて、拍子をかしく跳ね行き跳ね歸る、柔かな曲線を描いて連つた濃緑な山や、まばらに松を頂いて白い半腹を霧した岩山やを背景に、廣い〳〵藍がゝつた舞臺を。

かうした穏かなそして晴れやかな海上の空氣をおきわはうつとりとして樂しんでゐるもの其の心の底にはいやな〳〵心持が潜んで居て、時々その黒い顔を出した。遙か船の向ふに見える岬を廻ると、丁度牡蠣が磯岩にべツちやり附着いて居るやうに細い家が海の邊、山の麓にごちや〳〵と集團つて居る漁師町に姉の夫の八十治が其の瘦せさらぼうた病軀を、四十年間の吝嗇の結果造り上げた嚴丈な家の一室に横へて居るのである。

『强慾一點張りな人情の暖さなぞを知らう筈のない義兄がたとひ死に瀕したからと云うて平生冷淡にして居る私に逢ひたいと云ふ動機は何だろう電報には特にアイタイと書いてあた、どう考へても解らない。事によると、世間からも親類からも百足虫のやうに爪彈きされて一生懸命に造り上げた財産を、今、根は他人の養子夫婦に委皆呉れてやる馬鹿らしさに、又一ツは二十年來一日の如く柔しく仕へた妻のしほらしさに絆されて、此處に心機一轉したのではあるまいか、そして息のあるうちに私を呼んで姉の後々の利益を計つたり又ひよつとすると私にも札の束を一ツ位ゐ呉れるかも知れないなぞとおきわは自分に都合のいゝ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

事を想像して、直ぐ又其を自分で打消した。

船は進んで霞んで見へて居た岬へ差しゝかつた。聳へ立つ一帶の巉岸、凄い勢で其へ打ちよせては跳ね返される濤。空中高く飛び散る飛沫、此等の自然は新しい抗し難い力を以て、永く其等に接しなかつたおきわに迫つて來た。彼女は其の力を強く且ッはッきりと心の上に感じて、そこに云ひ知れぬ愉快を覺えた。彼女は感情の激動にボーッと上氣して、うツかり何か口へ出して云はうとしたが、ふと氣が付いて止めた。そして心ゆく許り海のオーゾンを深く吸つた。

船が目指す漁夫町へ着いたのは午後の五時頃であつた。上陸つておきわは客引にかまはすドン／＼町の方へ行くと直ぐ土地の若者の一團に會つた。大形の浴衣に緋金巾の三尺を締め湯上りの赭く光る顏を涼しい夕風に吹かせながら、三々伍々群をなして、あたり關はぬ大聲に都からの避暑客を驚かしつゝ歌つたり巫山戯たりしながらぶら／＼歩いて居る。或る或る氷屋の店先では眞白くぬり上げて赤い襷を掛けた小女が通りがゝりの若者に向つて黄色い聲を出して

『一寸、お寄りよ、エ？ 今寄つたばッかりだッて？ いゝぢやないか幾度だつて。お寄りッてばさ。何をぐづ／＼して居るんだよ。そんな處に立つて居るよか此處へおかけよ』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

若者の袖をとらへてグン〳〵引張つて居る。他の小女が
『お前由チャンのやうな美い女に勸められて這入らなきや女冥利がつきるよッ！』
おきわは思はず其店をのぞいた。色の黒い四十計りの慾深さうな女は、其の男が店先の緣臺へ腰を下したが最後氷をかき始めやうとして身構へて居た。

二

此の町には其の界隈の漁夫の經濟に無知なのを利用して築き上げた二三の資產家がある。其のうちの一ツの某と云ふ質商の資產家の店先へ今おきわは立つた。今迄待ちあぐんで居た姉のおみよは、妹の姿を奥から見かけてとび出して來た。そうして物も云はずに黑ツぽい縞の前垂を摑んで目に當てたまゝ跪くやうにして妹の足下へ泣き倒れた。
『兄さんはもういけないの？』
おきわは佇立つたまゝ沈んだ聲で聞いた。赭い髮をハイカラに束ねた。色の黑い大きな體のおきわとは似もつかぬおみよは女振りである。くッきりと白い水々した肌は紺帷巾の襟から袖口から際立つて見える。櫛卷きにした漆のやうな髮が少し亂れて居た。おみよはやうやく絞り出したやうな聲で
『あなたの來るのを今か〳〵と待つて居たのです』

云ひつゝ立つて涙にうるむ眼をあげて初めて正面に妹の顔を見た。涙は止度なく頬を傳ふて流れる。それを拭はうともせず、先へ立つて病室へおきわを案内した。

二人は病室へ行つて兩方から病人の痩せて冷え切つた手を握つた。日頃義兄の强欲を憎み、其の薄情を憤つて居たおきわは、かはり果てた、意氣地ない其の姿を見て、往來で見ず知らずの行旅病者を見ると同じやうな淡いあはれさを感じた。

『あなた、おきわが來ましたよ、目を開いて御覽なさい。さんざ待つて御居でだつた妹の顔をようく見てお置きなさいよ……エ！ もう見えませんか？』

おみよの聲は又うるんだ。

『兄さん、私です、しつかりしなければいけませんよ』

瀕死の病人の顔にかぶさるやうにしておきわはやゝ聲を高く作つて云つた。併し、今、自分の向ふに、夫に對してさほど濃い愛情をこれ迄持たなかつた姉が今更泣き止まないのを見ると死んで行くものよりも可哀相になつて遂ひホロリとした。そして義兄の亡き後、表面は親子でも根は赤の他人の中に一人ぼつちになつた姉の苦勞を思ひやつた。病人はくぼみ込んでしまつた目をやうやくに開いた。けれども瞳子は ボウと廣がつて光りは全く失せて居た。乾き切つて居る唇と所々赤くむけた、こはばつた舌を動かして何にか云つて居

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

るやうだ。けれどもおきわには分らない。おみよは聞き取つて妹に

『あのね、あなたの顔がよくは見えないが、恰好で分りますとさ』

病人は何にか云ひたそうにおきわの方を向いて又口を動し始めた。おきわは此の大病人が非常な骨折りで云ふ最後の言葉を一度で確かと聞き取つてやらなければ此の場合何にか濟まぬやうな氣がして、其の手を握つたまゝ病人の口の動き工合を一生懸命見つめて居た。姉は向ふ側からグラスの管で病人の口へ水をたらした。

『よ、よく來て吳れました。……私も今度は……とう〳〵命を取られます……どうぞ私が亡い後はおみよを御頼み申ます……私共には實の子が無いから……おみよを御頼み申ます……私がこんなになつたのを……若い者が……嬉しがつて居るのが……見えて……見えて……見えて……』

と迄云ふて疲れ切つたのか、くぼんだ目をかたく閉ぢ、厚い脣をぽかつとあいて苦しい息づかひである。と見る間に皺でくちや〳〵になつた目のふちへ涙がにじみ出た。おきわもつひ妹と一緒に泣いて了つた。そして枕許にあつた手拭で涙を拭いてやりながら病人の此の恨みがましい言葉に對して何か云はうとしたが、ふと厭な感じがしたので口迄出かけた言葉をのみ込んで了つた。後は唯お互に病人の顔を見守つて居た。此の時迄一言もさしは

さむ間のなかつた姉妹の母は病人の足の方から風を送つて居た團扇の手をやめて、そしてのり出すやうにして

『此の暑いのに、よくまア、來なすつた。何かえ船で暈やしなかつたかえ?』

『いゝえ、別に。でもお母さんは何時でも丈夫でゐて下さるから安心です』

おみよは立つて臺所へ行つた。

『お蔭でまア、こゝが惡い云ふ處もないけれど私も年が年だから何だか體が重くつて何にも役にや立ちやしないよ。おみよが手替りがなくつて困ると云ふから八十治が患み付いてから間もなくこッちへ來たゞがね、來て見りや下女が工合が惡いと云つて家へ行つてるし、お春さん(養子の嫁)は子持ちの上にこれもやッぱり腹工合が惡くて青い顏して居なさるしね。私がもう、ちッと働かれるといゝけんど。おみよが一人で大抵な事ちやありませんよ。さうさね、今日でもう病人が床に就てから』

と指を折つて見て

『十五日からになるが、其の間おみよは一度も帯を取つて寢ませんよ』

おきわは團扇で靜かに病人を煽ぎながら

『そうでしやうとも。けれど何故阿母さん看護婦を雇はないんです?』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此の時養子の喜七はチョコ〳〵と病室へ來て

『入來つしやい、遠い處をお暑いのにどうも』

と云ひながら、辭儀を濟ますと直ぐ腰の烟草入れをぬいて煙草を吸ひつけた。

『お父さんがこんなぢやお困りですね』

『エー、どうも仕様がありません。』

と云つて二服目を雁首へ結めて居る時

『お店ですよ』

とお春さんが大聲で呼んだ。喜七は急いで吸つてポンと叩いて彈つ返るやうにして立つて行つた。母は周圍を見廻してからおきわに摺り寄つて憚るやうな小聲で

『なアにね、もう、今日だ、もう今夜はだめだろうツてね、三四日も前から皆で云つて居るのでね、態々東京から看護婦を呼ぶがものはないツてね……それがらお前、永い間溜めて來たんだからね、シコタマ有るだよ、內證のが。だから私がおみよに云ふだがね、早く息のあるうち何處にかくしてあるか聞いて置くやうにつて。そうして置かないと後で馬鹿ア見るからツてね。それを。なか〳〵おみよは云ふ事を聞かねへだから困るよ』

おきわは此れを聞いて母なる人が堪らなく厭はしくなつた許りでなく憎惡の心をさへ生

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

じた。そして若し自分が自由に此の人を面罵する事が出來るか乃至は直ぐに此處を去る事が出來るならばと思つて心中非常な苦痛を忍んだ。おきわは唯顔をしかめたゞけだけれども其の日は涙で一杯だつた。病人を見ると靜かに寢てゐるらしい。が體が衰へ切つた割には意識の確かな病人が今の無作法極る母の言葉をねた振りして聞いて居たのではないかと其れも尙心配になつた。

『可哀相だよ、こんなになつてしまつて、どうかもう一度達者にしてやりたいと私も思つてるがね。何にしろ、世間へはそうは云はないけれども赤痢だからね。ふんとに惡い病氣に取つ付かれたよ』

と一だん聲を高めて云ふ母の言葉は如何にも空々しかつた。

三

十七八年も以前の事である。おみよは夫の酷薄に堪へず實家へ逃げ歸つて來たそして親や親類が寄つてたかツて宥め賺し連れ歸らうとするのを辛がつて奥の座敷へ這入つたまゝ朝から晩迄泣いて居た。その時母が

『八十治はね。あんな弱い體だから永生きする氣遣ひはないよ、どうして永く生きられるものか。あれが死にさへすりや、もう、しめたもんだ、あの家屋敷も身代も皆お前のもん

ぢやないか。ね、だから今少しの間の辛抱だ。何も稼ぎださ思つてりや我慢出來ない事はあるまえよ』

などと姉に云ひ聞かせて居た事をおきわは覺えてゐる。おきわは自分の體がかう云ふ頭を持つて居る人間の血や肉を傳承いで出來上がつて居るのかと思つて、今更乍ら、情けなくも亦不思議に感じた。

實際おみよの此家へ嫁いだのは彼女が未だ十六の年であつた。田舍育ちの初心な小娘は一家の都合やおせッかいな親類達の犧牲になつて其のふくよかな、柔い、世の中に經驗のない手をゴッ〳〵した、こはい大きな手に握ぎられた。握つた其の人は九歳か十歳の時父親に死に別れ、十三四歳から一文商ひをして母親を養つて遂に町内で一二を爭ふほどの資產家と迄成り上つた勤儉家であつた。全く金を貯めると云ふ事が此の人の生涯の目的、其の仕事の全部で金錢の前には彼の眼中何物もなかつた。若い者は盜人の用心にならないからと云つて、夫婦別々に一人は店へ一人は倉の二階へ寢たり、又おみよの實家が殘り少なの田地まで賣らうと云ふ逆境に陷つて親類が皆集つて善後策を講じて居た時、もし金の相談でも持ちかけるやうなら、二十年近くも連れ添ふた妻を離緣してもいゝと云ふ態度を示して居た。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

今襟掛けのまゝ水の手を拭きながら這入つて來たおみよを見ると、稍蒼白い顏には、看病疲れがあり〳〵見えるが、自分の親身の妹を見てから氣が引き立つた故か、幾分か晴々して居る。姉に續いてお春も臺ランプを持つて這入つて來た。敷居際にぺつたり坐り丁寧に御辭儀をする。おきわも不器用な御辭儀を返した。

『あの光チャンは？　私は未だ一度も見た事がないんですよ』

『あの只今守ッ子におんぶして戸外に出てます』

此れだけ云つてお茶を出して病人の方は見向きもせずに行つて了つた。うす暗いランプの光に照らされて病人の土氣色の顏は、だん〳〵黒く變つて行く樣だ。恐く此のランプの油のつきない內、病人は死ぬだらうと思はれた。今迄靜かであつた病人はシャックリをし出した。ひからびた、たるんだ咽の皮をクッと引きつらせては『アーン、アーン』と唸つて居る計りで病人は充分に苦痛を愬へる力さへ今は失つて居る。

『姉さん今迄にもシャックリが出た事がありますの』

『エー、度々ですよ』

落ち付いて口をきゝながら手は忙しかつた。水を含ませて見たり、胸を押へてやつて、いきませたりして居た。おきわは風呂が沸いたから入れと勸められて初めて病人の傍を離

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れた。
　ざつと汗を流し浴衣に着かへソコ〳〵に夕飯をすましておきわは又病室に來た。見舞の客が二人居た。其の一人は嫁の父親。もう一人は近所の荒物屋の亭主であつた。そうして病人の枕許には乾海苔が一箱、白玉の袋が二袋並べてあつた。此は此の二人が死期の迫つた病人への見舞物である。彼等はだるい調子で永々と四方山の話しをした後歸つて行つた。店の方では矢張り近所の亭主達が二三人集つて、煙草をふかし乍ら
『かう申しちや何だけんど、もう大分迫つて來たやうだな』
『そうだ、どうした處が今夜あたりだんべい』
『そうです……で若し萬一の事があつたら、此の暑いのに人寄は家でも大變だし、義理に來る人も迷惑でせうから、一時假埋にして置いて火葬は涼風が立つてから、やる積りです』
　養父の危急や養母の疲勞を空吹く風と落ちつひて居る養子の喜七は云ふ。
『はア。其れが、ようがしよ』
　まるでお祭の相談でもするやうに氣安く彼等は話し合つて居る。
　病室へは又養子の實父と近所の女房が三人許り見舞に來た。苦しくても踠く力さへ失つた病人の傍、又永い間の看護に疲れ切つたおみよが、一寸の間も病人の顏から目を離さず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

に居ながらお茶よ菓子よと氣を採んで居る中で、此の女達は悠々煙草をふかしながら、此家の主人の病氣になつた事がどう云ふ風に彼等の耳に這入つて行つたかをくど〳〵とお互ひに話し合つて居る。母は此處へ出たり這入つたり女房達に茶をついだりお愛相を云つたりして居る。僅か六疊の病室は暑さと人の氣と煙草の煙で四方開け放してあるに拘らず、むッとするほどだ。おみよは病人の口へ氷を一片入れて遣つた。おきわは病人の胸から上を一生懸命扇いで居た。女房達が歸つた後でおきわは

『姉さん今夜は私が新手で看護しませう、久し振りでゆッくり御寢みなさいな』

『えゝ、ありがたう、だけどね、見てお居での通り便が近いんだから、馴れた手の方が病人もいゝでしやうし、それに

と云ふて、病人に悟られないやうに低いうるんだ聲で

『今夜あたりは終りかも知れないから、矢張り私が傍に居ませうよ』

亭主連が歸り、女房連も歸つた後、小僧に指圖し乍ら、がた〳〵音をさせて店を閉つて居た喜七は此の時がつかりした樣な顏して病室へ這入つて來た。そして、いきなり、病人の枕許の開放してある肘掛窓へごつかり腰を下し、病人の頭を自分の足許にして東京から來たおきわに、兩國の川開きの話などを聞いて居る。お春は次の間の薄暗い所へ坐つて、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

赤坊に乳を呑ませながら蒼い顔してジロ〳〵病室の方を見て居た。やがて短い夏の夜を十一時が打つと皆寢て了つておみよ獨り病人の傍に坐つて居た。其の夜二時頃おみよは、病人が變だからと云つて、狼狽て皆を起した。皆が病人を取り卷いた時には、もう冷くなつてゐた。

假埋葬だからお通夜もざッとでよからうと云ふので、其の曉坊さんは唯一人であつた。それは頭のでこぼこな顴骨の出ッぱつた、赤あばたのある六十計りの人であつた。飾り付けてある佛前へ靜かに坐り『チーン』と鈴を鳴らした。白髪交りの長い眉毛の下に眼を細く閉ぢ、さて『ゴホン』と一ッ咳拂ひするとやがて蠻聲を張り上げてお經を讀み始めた。おみよは行儀よく坊さんの後へ坐つて團扇で風を送つて居る、母は珠數をかけた手を合せおみよと並び坐して、クド〳〵と口のうちで坊主の讀むお經を追ッかけて居た。喜七は好奇心に驅られたやうな眼つきをして横の方から坊主の手のお經を覗いて居た。おきわは眞面目くさつた顏して棺の側に坐つて義兄の一生を思ひ回らして居た。

『吝嗇家(しみつたれ)だのにぎりやだの、强慾の業曝(ごうざらし)だのと、あらゆる惡罵を人から浴せかけられた義兄は、或る意味に於て畢竟一種の慈善家ではないか知らん? 自分の慾望を悉く押制して蓄積した多くの財産を自分ではもうどうする事も出來ず、全部他人も同樣なものゝ手に委

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

して逝つて了つたのだもの！』

その翌朝早く死んだ人は四人の人足に舁かれて出て行つた。日頃口癖であつた火の用心、盗賊の用心に付いては何にも云はずに。

四

主人の死は、一家の者に何となく今まであつた頭の上の押への取れたやうな感じを與へた。これから養子夫婦は、若い母としてのおみよが益々邪魔になつて來るに違ひない。まして養子夫婦の背後には其の親が付いて居る。さうなると萬事に付けゴタ〳〵が起るに定つて居る。とこんな事情を考へるとおきわは何か惡い臭でも嗅いだ時のやうな厭な心持になつた。そして彼等の自分をヒドク煙つたがつてゐる樣子があり〳〵見えるので、彼女は一時も早く此處を去つて東京へ歸りたいと思つた。が又姉の悄然した、何處か疲れたやうな姿を見ると後に殘る姉が如何にも可哀想でならなかつた。

葬式のあつた翌々日の朝墓參にと線香を持つて姉妹は二人ぎりで家を出た。

墓地は海岸に沿うて絶壁の上に横に長く擴がつてゐる。墓地の上を種々な喬木や灌木が蔽ひ匿して此處に葬られて永久の眠に就いた死者の靈を守つてゐるやうだ。時々墓地の後の方から、打寄せる浪の音が樹々の間を傳つてきこえる。それが矢張り死者の耳に何事か

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

囁くやうだ。おきわは此の墓地が忽ち好きになつて了つた。そして來る時船の下から遠く眺めて小さい好い森だと思つたのは、之れに違ひないと獨斷に定めた。細い墓場路には草の露が、日に輝いて、其處此處から鳴き疲れたらしい蟲の音がきこえる。所々樹の枝が兩側から屋根の樣に參差して、二人はその下を露を浴びながら屈んで通らねばならなかつた。青い海が時々樹々の間の隙穴から見へた。

やがて二人は亡き人の墓前に立つた。線香を立てゝ、了ふとおみよはしげ〳〵と木標の邊を見詰めて立ちながら云つた。

『今更云つたところで仕方が無いけれど、此處に埋つてる人が私に眞の愛情のある人だつたら……せめて其があつたやうな心持を私に持せて呉れたら、私はそれで滿足するけれど……其の心持が私の淋しいこれからの生涯の慰めになるだらうと思つてね。あゝ思へばほんとに冷い死んだ樣な夫婦だつた。けれどももう何にもかも終末だ。私も充らなかつたけれど、死んだ人だつて面白くは無かつたでせう。可哀想に！』

おきわは其の飽氣は無かつた生涯に深く同情した。そして

『あゝ。姉さん！』

と何か云はうとしたが。實は何と云ふていゝのだか明瞭と自分にも分らなかつた。姉は語

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を次ぎ

『女と生れたのが不運とあきらめれば其れ迄ですが實は此の人は死んだ後迄私の體をしばつて置きました。動きのとれないやうにして養子の手へ渡して行つたのです』

『それはどう云ふ意味です』

『遺言の時にね』

『あッ、そう、其れを私は聞きたいと思つて居ました』

『遺言するのに隨分骨が折れましたよ。自分でもいよ〱いけないと思ひ定めた時、若い者や私を枕許へ集めたんですがね、何にか云ひ出そうとすると體中がガタ〱ふるへて言葉が喉へ咽へて了ふんでずもの私が傍で水を呑ませ〱したのでやうやく云つてしまつたんですがね』

おきわは無言で姉の顏を見詰めて居た。

『つまり、こうなんです。實子のない私が一人になつた時には嘸淋しいだらうから、いくらか樂しみになるやうに財產の幾分かを分けてやれと喜七に云ふんです。それだけならいゝんですが、もし私に不正と思ふ行爲があつたら容捨は、いらないから、素裸にして投り出せ！ッて……私は不正な事をしやうとは思はないけれど、けれど、何だか情なくて…

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

……』

おみよは泣き出した。おきわは體中が熱して『どんなにか又苦勞をさせなければならないだらうか』と思へば知らずく熱い淚がにじみ出て來た。が氣をとり直して

『姉さん、あなたは、自分の力で、太陽の光を直接に吸收して、生きて行く事はどんな心持のするものだか、味つて見る氣はありませんか』

おみよは此の時不安の目を妹に向けて體中を震して居た。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

その日の夕暮、漁師町に燈火が點いて、後の山の端が月白む頃、おきわは東京行の汽船の甲板上に立つて居た、船はたゞ獨り廣い夜の海を、暗い浪を分けて進んでゆく。やがて月は山の端を離れた。海の上は見渡す限り急に明方の空のやうに明るくなつて、浪の群は月の光を吸はうとして、頭を擡げて慕ひ寄るやうに見える。おきわは岬の燈臺の火が遥か遠くに見えるやうになつても、ふりそゝぐ樣な月光を浴び、海の涼風に吹れながら、未だ甲板の上に立つて、たゞ無心に見え分かぬ、果しも無い沖の方を見づめてゐた。おみよの事は此の時、まるツきり彼女の頭の中に無なかつた。

（をはり）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

母權——エレン・ケイ

なせなら生の如何なる手段も決して自己の全存在を以つて生き、かくして絶へず充實せる偉大の生涯を送らしめんとする生の意義を忘却することは出來ない。人間が單に宗敎、仕事、祖國、人道否戀愛の爲めにのみ生活するのは不道德である、なせなら人間はすべてこれ等によつて生活すべきである。完全なる人道に到達するこれ等の手段の唯だ一つより除外せらるゝと云ふことは如何に彼が他に執着するも償はるゝことは出來ない、丁度それは人間の感覺の如何に少なる部分と雖も一度それを失ふ時は、如何に他の感覺が完全にせらるゝとも再び取り返へし得ないと同一である。そして全體を熱望するに反して、未熟なる人權の一部を以て滿足する忍從は衰へて雪中に眠らんとするが如きものである。それは勿論新しき經驗の爲めに自己の靈魂を擴張するよりは安全なる狀態である。なせならその場合に於て人はまた新しき負傷の爲めに準備せられなければならない、そして自已の苦痛を覺醒しつゝ耐ゆる人は魔睡劑によつて睡る人より一層苦痛を感ずるは云ふまでもない。併

しながら如何なる標準も苦痛と苦痛ならざることとによつて定めらるゝより卑劣なることはない。問題は唯だ人間が何故に苦しむか、そして彼がその苦痛の結果自己及び他人の爲めに如何なるものとなるかと云ふことである。

人生は一方に幸福の金冠を持すると共に、他方に苦痛の鐵冠を持してゐる。彼女の愛するものに彼女はその二つを與へる。併しながら兩者の重量を感ぜざるものは追放者である。

戀愛は人生の最大なる寳として多數者によつて證認せられたけれども、人類は未だ人生に於ける戀愛の位置を準備することが出來なかつたと多感の一婦人が云つたことがあつた。結婚以外に於て戀愛は罪と呼ばれてゐる、また現在の如き結婚に於ては、戀愛の生くることは極めて稀である。そして若し戀愛が結婚者以外の者に對して起るならばその時それは子供の爲めに犧牲にせられなければならない。

新しき婦人等をして結婚以外の戀愛に對して長所を備へんと決心せしめたのはかくの如き見地からである。

婦人等は――そして男子等もまた――大小さまざまなる價値が恰も切られたる骨牌の如く雜然と混合せられてゐる道德觀念を檢べ始めた。女子の側に就てのみ云へば、凡ての道德は性的道德と同義になつた、凡ての性的道德は肉慾の缺乏、結婚資格證明書の存在と同

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

意義になつた。演説に、詩歌に婦人の『妻及び母』としての天職が讃美せられてゐる。併しながら同時にその天職はそれが達せらるゝまで、尊敬すべきものと考へられず、反つてその完全なる完成の條件である健全な力を以て追求せらるゝ時、不名譽と考へられてゐる。女子は强健で、自重し、善良にして活潑、寛大で勇氣あり、尊敬すべく信ずるに足り、従順にして忠實であり——一言にして云へば男子によつて評價せらるゝあらゆる德を有してゐても、若し彼女が種族に對して新しき生命を與へる時、不德と呼ばれるかも知れないのである。然るに性的道德の見地より非難さるべき婦人があらゆる不信と臆病と讒謗とを恣まにするに拘らず、なほ社會の尊敬を受けてゐるやうなことがあるかも知れない。

この思想の混亂はかくしてさま〴〵の感情と一つとなり、新しき正義の觀念が改進を行ふにはなほ數世紀を要するかも知れない。

併しながら結局女子の道德は種々なる點に於て男子の場合に於けるより、遙かに深く彼女の性的道德と結合せられてゐる。自然彼女自身が戀愛と子供とを男子以上に女子の存在と密着せしめた時、この關係を定めたのである。新しき生命を創造せんが爲めに自巳を全く捧げることは婦人の全人格にとつて常に最も重要なる事柄でなければならない。そしてそれ故に結婚に關してゞはなく、母態に關する女子の態度は他の點に於ける彼女の道義的

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

進歩及び精神修養の明かなる證據であるであらう。

男子と同等なる女子の爲めの性的自由は深みある女らしき女にとつては自然に反する要求である。併しながらこれは男子が彼の自由を亂用し、女子が彼女の自由を『從法的』範圍内に制限しなければならないと云ふ意味ではない。また婦人が自から男子に接近し、また性的存在者としての彼等の性質に從つて相互に接近しなければならないと云ふ意味でもない。この種の感情を有せざる多くの女子が存在し、そして既婚の婦人がかれ等の自覺以前既に充分なる滿足を與へたるが故に、官能の要求を拒むことも事實である。併しながら戀愛の發展がより純潔なそしてより健全な、見解を抱いた時、男子も女子も婦人が彼女のうちに『第三性』の性格を發達せしむることを、すぐれて價値あるものと考ふるやうなことはないであらう。その時凡ての人は、人生が最も充實せる健全豐富なるものとなるには性的運命の完成を含まねばならず、そしてたとへこの點に關する活力の制限が肉體の苦痛を齎らさないでも、それは結果として精力を減殺する深き心理的障害を含まねばならないと云ふことを承認するであらう。またその時何人も多くの强健活潑なる未婚の婦人の間に於て、たとへ父としての調和を保たざるも、なほ同一の尊敬に價する婦人が發見せられる事實を無視するものはあるまい。そしてその事柄は勞作に於ける修養と眞率さを缺いてはゐない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そして事實は單に前述せるが如く婦人の性的生活は——それが强く健康になつた時、男子に於けるよりも遙かに親密なる方法を以つて彼女を支配する。彼女は屢々無自覺なるが故にこの方面の抑制から痛切に苦しむことが極めて稀である、併しこれを償はんとして、彼女はより多く根本的に苦しみ漸次彼女の活力を消耗し盡す、そして狂氣及びヒステリヤ等の多くがこれに原因する。

この種の犧牲が人生を一層悲慘にする、なぜなら最も精神の善良なる、凡ての意味に於て豊かな溫かき女性が屢々かくの如き運命に遭遇する。そして種族は直接間接に未だ生れざる子供等を失ふのである。

現在に於ては、また少くとも凡ての女子に對して一人の男子のゐない間は、これらの損害はたゞ變せられたる道德標準によつてのみ除くことが出來る。なぜなら我々は極めて緩漫なる手段を探し求め、自然が實際女兒以上に男兒の產出を過重し、よりよく男兒及び男子の生活を保護せんと企つるやうに思はれ、バランスを囘復せんとする、數年以前代表的文明國の一つに於て提出されたる議案は疑ひもなく偶發的救濟策として考慮を償へする、即ち技倆ある婦人の過剩を生ずる國より、その反對なる國にかれ等を移住せしむる完全なる組織である。なぜなら職業上の熟達がこれ等の婦人を結婚より獨立せしむると共に、かの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

現在獨身若しくは娼婦の二者を選ばざるべからざる男子の如く、結婚の增加せる可能性を與へられるであらう。

併しながら概してかくの如き救濟法を講ずるは自覺ある社會のみである。併しながら青年自身が實行の警鐘を亂打して社會の意識を覺醒するまでは、容易にその改善は實現されないであらう。

ある點に於て若き勞働階級の男女等は、かれ等の缺ける機會をかれ等に備ふる純外面的の點に於てかれ等の手中に自已の運命を握るかも知れない、學生階級の青年の場合に於ては愉快にして價値ある友誼の下に相知るの機會は多く人生幸福の基礎を造る。

婦人の運命が一二の原因から戀愛の實現を不可能にせるそれ等の場合に於てまた、彼女は――子なき妻の如く――現在に於けるよりも屢々彼女の生活を豐富にし、半ば彼女の母情を滿足せしむる爲めに今まなほ不幸にして多く發見せらるゝ貧困なる子供等の一人を選み、彼を愛することが出來るであらう。かくの如く自已の幹の上に接木することは屢々立派なる果實を與へる。淋しき婦人はそれによつて無情苛酷の犧牲となることを免かれる、それは必ずしも抑壓せられたる性的生活の結果ではなく、氷結せる心情のそれであることが多い。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

婦人が母態の缺乏によつて永續する生活の障害に苦しむ場合に於て、彼女は結婚の如何を問はず、また戀愛なしにすら比較的害少なき母態を撰擇しなければならない。必要はそれ自身の法則である——そして自己の生活を節約する者は自由でなければならない。併しながら同一の必要の下に置かれざる婦人は他の人々の模範となることは出來ない。

故に母權の解決は未婚の婦人の大多數を奬勵して戀愛なき子供等を備へしむることとではない。また子供ある父と共棲することは不可能であると豫め知りながら戀愛によつてかれ等を得んと奬勵することでもない。

併しながら一方に於て未婚の婦人は、彼女が豐富なる靈魂を有し、偉大なる母態を有し、また例外なる運命に耐へ得る勇氣を有する時、彼女は彼女自身並に種族の見地から母權を有する。彼女の子供を通じて種族に遺傳すべき彼女自身及び戀人のあらゆる豐富なる性質を有してゐる。彼女は完全に發達せる人格を有し、彼女の靈肉の活力、勞働によつて彼女の獨立は子供を充分養育することが出來る。彼女はその職業に於て彼女の存在の一部を使用するのみである。彼女が生の賜物を持せざる中充分にそれを發現せんことを望む。故に彼女は充分なる兩親の證認を經て母となるのである。併し凡てこれは未だ In second primary age の制限に達し、或はそれを超越せざる婦人に對しては殆んど適用することが出來な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い。その時まで彼女は充分に彼女の慾望及び勇氣を感じないであらう。また彼女は人生が彼女の爲めにより高き運命を有せざることも知るべき理由を有しないであらう。併し現代の如くこの方面に於ける人生の障害が耐へ難くなつた時に、大膽なる實驗が成功して始めて辨明せられる。

かくの如き實驗が成功する爲めに、婦人はたゞに雪の如く純潔でなければならないのみならず、彼女自身の生命を愛子に與へ、種族に光輝ある發展と新しき寶とを與へる爲め火の如く純潔でなければならない。

もし彼女がかくの如くであるなら――その時種族にその子供を贈るこの未婚の婦人と、單に『子供を持つ』未婚の婦人との間に深淵が橫はるであらう。

勿論、前者は彼女の子供をその父と共に養育することを幸福の理想と考へるであらう。彼女をさまたげる事情は種々あるかも知れない。たとへば人間の自由は彼を束縛する幼年時代の義務及び感情によつて制限せられるかも知れない。兩人孰れかの生活或は職業の狀態が完全の結合を妨げるかも知れない。そのやうにまた兩人孰れかの人格が結婚によつて束縛せらるゝ經驗があり得るかも知れない。或はまた戀愛それ自身がその期待に反し、そして女子が餘りに傲慢であつて自から墮落せりと考へず、また結婚によつて救はるゝの必

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

要を感せざる場合があるかも知れない。併しそれは反つて女子の墮落である。最後にまた優秀なる婦人が――子供に對する强き慾望に驅らるゝは屢々最上なる婦人である――戀愛または智的產物の要求と彼女の母態を結合し得ざるが故に唯二個の義務にて滿足することが出來ると考へ、それが爲め戀愛より子供を承認すれど結婚をば拒絕するが如き例外がある。

併しそれにまたこれ等に全く相反する運命がある、たとへば婦人が自已の爲めに子供を欲するが男の爲めにそれを退くるが如き事がある。

大抵の場合に於てこれは女子が非常な愛情を以て男子の仕事を助け、男の要求に從つてその仕事の爲めにヘロイーズの精神を以て彼女の母の幸福を犧牲にするのである。そして戀愛が贊成せらるれば、せらるるほど婦人はかくして彼女の夫の仕事を子供として愛し、男子はまた彼女の仕事を自己の子供として愛することを學ぶのである。

併しながら婦人が男子に對しその完全なる自由を維持せんことを願ふは他の理由の爲めであるかも知れない、たとへば男子が年下であるか、または彼女が男子に子供を與へ得ざることを知つてゐるやうな場合であるかも知れない。かくの如き結合は歐洲に於て稀しくはない、それによつて男女はかれ等自身の生活並に周圍の人々のそれを豐富になさんことを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

希望する。かくの如き場合に於て女子には彼女の母性を變じて男子に對する愛情となす。彼女は男子の爲めに最善なる生產力を與へる、故に男子は彼女に比してより多く成長する。併しながら彼女はそれによつて彼女の胸中の子供に對する母の幸福を享樂する。かくの如き婦人は、母が子供に對して彼女自身を養ふ如く、彼女が後に子供に與ふることが出來得ない最も美はしき智的養分を求める。彼女は自から單獨に享樂し得るものをひそかに得たと感ずる。恐らくかの自己の血液を以つて子供を養育したペリカン鳥の傳說はこれ等の婦人に對するよりよき象徵であるかも知れない、かれ等は早晚あらゆる點に於て自己の熱望に答ふる花嫁を撰ぶ男子に出遇ふべく準備せなければならない。これ等の如き場合が、若しあるなら、それは『偉大なる愛は報酬以上を希望する』そして『それは創造するであらう』、と云ふニーチエの言葉を證明する。ここに於て女子の性質は戀愛に對する偉大なる天才を現はす、そして婦人がより高く到達すればするほど、それ丈け彼女自身の名譽、彼女自身の勝利が確かに多くなる、そして彼女自身の未來は戀愛に對する彼女の偉大なる才能を充分發揮し得る喜びに對して羽毛の如く輕く見へるやうになる。そして女子が彼女の戀人の完成の爲め發達せる女性のあらゆる過剰を濫費すること以上に他の婦人を愛し得るだらうか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

すべての女子が要求する所は、現在に於いて最も善く彼のリカルダ、ヒユフ（Recarda Huch）の『自己の爲めの勇氣、他人に對する同情』と云ふ言葉によつて現はされた。

自己の運命に對する勇氣、それを忍び、若しくはその爲めに破るるの勇氣。併しまた自己の運命を期待し、若しくは選擇するの勇氣。新しき勇氣の何等かの部分を欠ける歟に對する同情、大膽、警戒、忍耐。

* * * * * *

女子の新しき勇氣が發見し得た二個の道程――子供を有せざる男子と仕事、男子なき子供と仕事――はそれ等が生の向上を現はす時人生の正しき形と云ふことが出來るかも知れない。併しながらそれ等は多數者に對する人生の道ではない。この道はかの古き印度の諺である男子は半人であり、女子も半人である、唯だ子供を有する父母のみ全人となることが出來ると云ふ趣意に從つてゐる。そしてたとへ婦人が生の要求からかれ等の春的慾望を滿足せしむべき權利を有するとしても、かれ等は戀愛によつて夫に子供を與へ、子供に父を與へるまでは充分なるヒユマニティに到達することが不可能であると云ふことを忘れてはならない。

* * * * * *

我々は男子が子供と充分なる家庭生活を準備することが出來るまで待つてゐる未婚の若き妻に就ては何事も云はなかつた。實際、これ等の婦人は餘りに多くかれ等自身及び他人の心情に依頼するの悲哀を經驗するかも知れない。併しながらかれ等は意志に於て純潔であつた、そしてかれ等の意志は未來の家庭生活に導かれ、その隨一の價値がかれ等を速かに成功せしむる『冒險』には導かれなかつた。

故にこれ等の若き婦人等は現代のヘタイラ(希臘の白拍子)になつた人々とは大いに差別せられなければならない。これ等の新希臘婦人等は立派なる修養を受け、一夫多妻的婦人の撰ばれた純粋の型である。かれ等に取つて戀愛は享樂の一要素に過ぎない――勿論その價値はかれ等の纖巧なる指先が弄ぶ紙巻煙草よりは高く、かれ等の蒼白き頬を溫むるアルコールよりは高い――併し色彩の喜び、詩歌の陶醉よりは無論その價は低い。

かれ等は男子と共に仕事の喜び、創造の欲望、美の享樂、理想及び戀愛の自由等を分つ。かれ等に取つて、一つの關係より他の關係に移り、次第に空虛、疲勞、衰頽等の感覺を供ふ『戀愛』の結果より憎むべきものはないであらう。すべての點に於ける不結果はかれ等の運命でありそしてかれ等の罪科である。なぜなら人生は實らざる孤獨者に對して何等の便宜をも許さない。實際時としてかれ等は生存を繼續することすら出來ない――そして幾

度もかれ等の靈魂が愛し得ず、創造し得ず、苦しみ得ず、唯だ傷けられたるの蕾、或はそこなわれたる果實の如く生命の樹より脫落せんとする意外には他に何等の意志を有してゐないと云ふことを證據立てるのみである。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

特別なる運命に對する權利はただそれが幸福を備ふる人々にのみ從屬する。言葉を換へて云へば、それがその人自身の生活及び周圍の狀態の要求の間に一個の契約を定め、かくして個人の力を與ふ限り最高なる發展に到達せしめんとする場合である。そしてこれは個人が自己の爲めに社會と爭ふが如き位置を作り出す時、殆んど稀れである、かくして如何に思慮ある人も自己の運命を改善せんと欲する强迫勞働によつて壓制せらるゝ多數の君き婦人を特別なる運命に委ぬることは出來ない。先づ以つて着手せなければならない焦眉の急はかれ等の勞働の性質と狀態とを改善することである。

婦人等は一層熱心にかれ等の女性及び人格のあるものを發表する機會をかれ等に與るが如き仕事を發見し、若しくは發明することに努力しなければならない。併しかくの如き徵候が次第に現はれ始めたと云ふことは喜ぶべき現象である。たとへば丁抹に於ける優れたる婦人數學家は――如上の理由によつて――彼女の學問を捨て、スカンヂネビヤに於ける

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

工場の第一流の女監督者となつた。また獨逸では一人の婦人化學者が同一の理由から同一の境遇を撰んだ。また同國に於ける或婦人法律家は全く子供等の保護の爲めに自己を捧げつゝある。また佛蘭西では貧困の婦人等の爲めに辯護士の職に從事せる婦人がある。併しながらその他自由に自己の職業を撰擇し得る幸運なる境遇なるにも拘らず、かれ等の個性力を最も自由に使用せんとは欲せず、最も精確なる收入と最も大なる恩給とをかれ等に提供する職業を求めた遙かに多くの婦人が發見せられるであらう。

併しながら撰擇の可能性すら例外の技能、若しくは例外の事情に屬する。自から働かなければならない、或は働かんと欲する多數の婦人は單にかれ等を支ゆる捧切れとしてではなく眞にかれ等の大黑柱となる職業を發見することは困難である。婦人とその職業との間に更に大なる有機的關係を確實にするには、さまざまなる報告が實際的若しくは理想的の仕事に關する地方的要求として種々なる場所より送らるゝが如き代理事務所、若しくは取引所に於けるが如き仕事以上に必要なるものはあるまい、そしてまたそれと連關して新しき一種の抵當銀行が置かれ、その銀行には若き婦人の勇氣と勤勉と發明との上に抵當が置かれ、事實その銀行は容易なる返濟の約束を以て現在これ等の利用せられざる財產を國民の財源中に投する必要ある金を貸すべき銀行である。未婚婦人の幸福の分量は、若しかれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

等の創造的本能がかくの如く少なくとも强健なる活動に導かるゝならば增すであらう、それによつてかれ等は或程度まで、世話すべき或者を有し、かれ等の周圍に快樂と美とを呼び起さんとする要求を滿足せしむることが出來る。

如何なる資金もかくの如きもの以上に立派なる保護者の寄附金としゝより多く價値のあるものはあるまい。

また賃銀勞働を繼續するべく强ひらるゝ婦人等は少くとも社會問題に携はり、一致共同の義務、組織の必要を理解することが必用である。そして高き賃銀と短き時間と夏期休業等を得、その他かれ等が或程度まで身心の力を保存し、萬人が當然有すべき生の快樂を得なければならない。これに資する第一の條件として、兩親と生活する娘等が全く獨立する自活者の生活し得る賃銀以外の割合で勞働することを止めなければならない。そして一般の婦人は單にかれ等が勞働せるが故に價値ありと考へ、かれ等が僅少なる賃銀に甘んずる勞働が全社會に取つて如何なる害を及ぼすものであるかを省みざる無自覺狀態から覺醒しなければならない。

併しながらかれ等自身の生活を高めんとすのみがその意志ではない、先づこれ等の勞働婦人等が要求する社會組織に對する更に生々せる感情を高めなければならない。敎育、休

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

息、美、戀愛、母態等に對するかれ等の個人的要求が凡て他の人々のそれ等と聯關されなければならない、それ故にかれ等は自己に對する慾望をまた他の爲めにも要求することが出來るであらう。不幸なる經驗によつてかれ等自身の存在を貧弱にする代り、かれ等は他の婦人等の靈魂をより美しき生活の夢を以て滿さなければならない。そしてこれを爲すには絶へず活動しあらゆる手段を與へ、さうして取ることに勉めなければならない。

かくして無數の小さき流れが意志の洪水を起す、それはいつか意慾する力と拒絶せる壓制との間の古き目標を除去するのであらう。戀愛を奪はれたる婦人はかくして多數の運命の中に彼女自身の小さき運命を忘れることが出來、彼女自身の制限せられたる生活にも拘らず、彼女が自己の中にヒユーマニテイの鼓動を感じて生活することが出來るやうになるであらう。

（母權終り）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

再び松本悟郎氏に——野枝

あなたの私宛てにお書きになつたのを拜見いたしましてまた私は澤山書き度くなりました。けれどもまた一方には到底私の考へがあなたに何處まで口をすつぱくして申あげた處でおわかりになりさうもないことを發見すると同時にあんまり書きたくもなくなりました。けれどもこれを最後の御返事として私は口をつぐみます。この上になほ理解を求めやうとは思ひません。

あなたは私のかなり眞面目にあなたに自分の考へを虚飾することなしにお傳へしたのに對して實に卑怯なごまかしを仰云ひました。何故あなたはあんな「從來の女にあり勝ちな負けず嫌ひな調子がおもひ合はされます。」などゝ妙なひとり合點なことを仰云ひます。私は調子で物を云つたり書いたりしてゐるのでは御座いません。私は理屈を云つてゐます。あくまで自分の理屈が正しいと思つて物を云つてゐます。負けずきらひは私の性分です。またあゝした時にその調子の現はれるのは極めて自然です。私は妙な虚飾は一切用ひません。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あなたは何處までも自分を一段高く置いて物を云はうとしてお出になるやうです。私はあなたの卑怯な仰云り方を嘲笑いたします。幾度拜見してもすこしも私の考へはちがひません。私はさうあなたのお考へになる程落ち付いてゐなくもありません、私は落ち付いてゐます。だから私はちやんと申し上げたでは御座いませんか、「あなたが私共の態度について不滿にお思ひになつたことは一々尤もだと私は思つてゐます」と。そして私だちがどうしてそれに氣附いてゐながらまご〳〵してゐるかと云ふこともちやんと說明いたしました。あなたはその私にとつては大事な說明のことについては何にも一言も云はないでたゞあんな妙なことを云つて誤魔化してお仕舞ひになりました。どうせあなたはあなた、私は私です。そう誰も彼もの考へが一致しやう筈がないのですから其處は違ふが此處は同じだと云ふ位の態度で物を云つたらよろしいでせうと思ひます。何も相手をやり込めるのが目的ではないではありませんか。あなたは私に負けずきらひだと仰云ひましたけれどもあなたはもつとちたの惡い負けずきらひです。あなたはずつと複雜な念の入つた負けずきらひです。私は負けずきらひな代りに他人から指された自分の缺點がもし自分でさうであると思つたら正當に肯定いたします。それは決してつまらない事ぢやないと思ひます。あなたはずつと性質がおわるい。あなたは私のやうな女から殊に年少者から突き込まれることを屈辱と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お考へになる位置があなたの位置があなたを卑怯にしてゐます。あなたこそもう少しお考へにならなくてはいけないと思ひます。私はあたり前な理屈を云つてゐます。あなたも妙な喧嘩づらをしないでそしてそんな先生顔をしないでもう一度私の云ふことを聞いて下さい。皆あなた方のやうな方はとかく若い者に對する時に先生顔をなさるから話かわからなくなるのです。こんな時には對等に聞いて頂きたいと思ひます。

私が前に申しました、いくら私が口をすつぱくしてもあなたと私とはちがふと云つたその根本の差異を先づ並べて見ませうか。

私の社會と云ふものに對する考へは何處までも「社會自身は私には無意味な、問題にならないものです、それが自分の生活に關はつて來るときにはじめて問題になるのです」と云ふのです。

あなたのお考へは「社會と自分の生活に交渉があるとかないとか云ふ馬鹿な事はない社會と自分と引きはなして考へることは出來ない」と云ふので御座いますね。

其處で私の考へとあなたの考へは永久にはなれてしまつてゐます。どちらがいゝとかわるいとか云ふことはきめるのはなか／＼一朝一夕の問題ではありません。またそんな馬鹿な努力をする必要もありません。私の信條とあなたの信條が違ふのです。私はあなたの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

考へは間違つてゐると思ひます。あなたも私の考へが間違つてゐるとお思ひになりませうけれど兎に角私にとつては——あなたはどうだか知りません——あなたの考へを打ち破さうなど云ふことはつまらないことですしそんなひまもありませんから、あなたの考へはあなたの考へとして尊重して、たゞあなたの仰云つた私の考へに對するあなたの間違つた點丈けを申しあげて失禮することにいたします。

あなたは私の社會に對する考へに向つて「我々の生活に全然沒交渉な社會と云ふものが若しもあつたらそれは勿論無意味でせう」と仰云つた。あなたは到底それをあり得べき事でないやうに仰云ひました。成程あなたは立派な社會學者先生だと感心いたしました。私は自分のことやその他、思索する時に、かなり社會とは沒交渉になつてゐます。それはあなたのやうな一も社會二も社會と何でも社會によつて事を運ばうとするやうな忠實な社會讃美者には到底不可解だと思ひます。私は現代の社會に對しては思ひ切つて不滿をもつてゐる反逆者の一人であることを信じます。そうして私はあなたとは違つた意味で「我々は一切の過去其物だ」と云ふ哲理を讃美します。私はあなたにそんな理屈を持つて來られやうとは思ひませんでした。

日本婦人が家庭よりも廣い社會生活が出來なかつた爲めに社會と自分との關係がわから

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ないのも無理はないなどゝは大したお言葉で御座いますね、あなたの考へてゐらつしやるやうな普通な考へなら小學校を卒業した子供でも知つてゐます。あなたはそれよりもすこし理屈を余計に御存じだと云ふ丈けです。私はもつと深い處から同じ問題でも見やうとつとめてゐます。従つてあなたのやうな淺い考へで何かを見やうとなさる方には私の告白がやつぱり情ない程淺く見えるのでせう。あなたには情なく見えませうが私には少しも情ない事ではありません。あなたこそ落ちついてもう一度私の書いたのをおよみ下されば私達現代の日本婦人がどんな處におかれてゐるかがおわかりになるでせう、男子が女子よりも社會的だと云ふことは、歴史的事實に徹しても極く普通なことでなにもわざ〳〵あなたが一人でお威張りになるにはあたりません。私はその事について出發點から歩いてゆくのには時間がかゝると申したではありませんか、先へ出發したものが先きに歩いて行くのは當然のことです。けれども理屈丈けなら直ぐにでも追ひつきます。記録と云ふものが殘つてゐますから。けれども私はもつと確實に先へ行つた人などには頓着なしにしつかり自分の道を歩いて行きます。實際に歩いて見なくては其處に眞實に自分でその道程を肯定することは出來ません。私は今多くの人たちの所謂社會に多くの誤謬が深く根をなしてゐることを知つてゐます。人達はたゞ大ざつぱな他人の云ふ理屈に同感しました歴史的事實と云ふつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かまへ處によつてわけもなくその誤謬を見逃してゐます。私は過去の人々の考へを運ばした通りに自分自身の考へを忠實にはこばした上でどうちがつてゐるかを知らうと思ひます。私はすべていゝ加減な態度をとりたくないのです。

第一義的とか二義的とか云ふことは私は別に申したやうな覺えもありませんがもし外面的なとか內面的なとか云ふ言葉がそれにあたるのでしたらそれは勿論あなたの仰云るやうに全然別に離して考へてゐるのでないのです。あなたの說明を待つ迄もなく私は決して二元的な考へで物を觀はしません、私の云ふ內面的又は外面的と云ふのは一の物を表裏の關係と同一の關係であることを御承知下さいまし「婦人問題よりも人間問題の方が先決問題だ」と私の言つた意味はむしろ多くを男子側について云つたのです。男子の方々が婦人についての態度に私は不滿をもつてゐます。もう少し男子が自分自身を考へてそうして婦人の地位を考へたらと思ふのです。男の人はあなたはじめ婦人よりもずつと自分達を上に置て問題をとり扱はうとしてお出になります。けれどもそれが私達から見ますと男子の無自覺な笑ふべき態度であるとしか思へません。あなたが婦人よりも社會的意識が發達してゐると云つて誇りなさいますけれどもそれが本能的では少しも誇りにはならないと思ひます。あなた方をさうしておいたのは矢張り習俗の力ですから。私はだから男子がそんな下ら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ない自我を捨てゝ眞實に自身を考へると同時に婦人の位置を思ひまた婦人自身の意識が動き出して來れば自然と婦人問題なんかは消えて失くなります。人間問題卽ち婦人問題と云ふ位な理屈はあなたに改めて伺はなくても知つてゐますが私は前にも云つたやうに自分丈けは除外したやうな顏をしてゐる男の人の態度を考へさすことが最初の仕事だと云つた程の意味です。私の言葉の遣ひ方がわるかつたのかもしれません、もしそれならば御許し下さいまし。

それから私が先導者でないと云つたのが青鞜社の規則を裏切ると仰云ひますが、或はさうかもしれません。けれども私はそんな規則や何かの爲めに自分の考へに不能なものをまじえ度くはないのです。私一個にとつては社の規則など云ふものはいくらのねうちもないものです。のみならず私は今迄の社に對しては創立の最初の組織や何からして不滿をもつてゐます。私にはいろんな規則だとか何とか云ふものが可なりわづらはしく厄介に思はれます。幸ひに來春一月から雜誌は私の手に經營することになりましたから私はすべて今迄の規約や情實を破壞して新たな自分の仕事として、はじめの一歩から出直さうと思つてゐる位です。さう云ふことの本當の氣持は失禮ながら矢張り規則を裏切るなど云ふことを殊更らにとがめ立てなさるあなたにはおわかりになるまいと思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私の個人主義については澤山に書く事はありますが、今は時間が許しませんから御許し下さい。その内にすつかりまとめて發表いたします。あなたのお書きになつたものも拜見してゐるひまがありませんから今度はこれで止めます。併しまた若しひまになつて拜見した上で云ひたくなればまた私の個人主義と一緒に何か理屈を云ふかもしれません。併し今の處あなたと私の立つてゐる處は大分ちがふやうですから何をお互ひに云つた處で無駄らしく思はれます。私の理屈をお聞き下さるにしてはあなたはあまりにいろんな先入見に支配されまた、自分の位置を氣にしてすこしも自由な態度をおとりにならないですべてが固定してゐるやうに見えます。私はこれでもうまたあなたが何か仰云つても多分何にも申さないでせう。あなたはあなた、私は私ですから、あなたはあゝでせう。私はこうです。

左様なら。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

性的生活と婦人問題（研究と評論）――小倉清三郎

一、性的生活の内省的研究に就て

性的生活は種々なる方法に依つて、幾つもの方面から研究せられて居る。醫者が其の取扱ふ病人に就て、丁度病氣を研究するやうに、其の病人の性的生活を研究するのも行き方の一つである。今までの所では此の行き方が最も多く取られて居た。精神病學者や、花柳病學者や、婦人病學者などが其れ其れ自己の取扱ふ病人に依つて與へらゝ材料を使つて研究を進めて來た、小兒科の方からも研究が現はれ、警察監獄醫の方からも現はれて來た。

一方には又た健全なる人々から其の性的生活を話して貰つて、其れを材料にして、研究を進めて行く學者も出て來た。之れは醫者の行き方から見ると、其の材料を得る上に於ての困難が種々なる點に於て、比較にならぬ程に大きい。然し之れは病人のみを取り扱ふ學者の接近し得ない方面に這入つて行くことが出來る。醫學の方の研究は主として異常なる人々に就ての研究である。健全なる人々の生活を斯かる研究のみに依つては、明かにされ

得ない。健全なる人々の生活は直接に健全なる人々に就て研究することが必要である、此の方面の研究に於て、それまで最も骨を折つてくれたのはエリスである、私のために最も力となつたのもエリスである。全部六卷の「性の心理の研究」は彼の研究の結果を纏めたものである。其れは絶へず版を重ねられ内容を新にせられつゝある。

私は自己の性的生活を内省に依つて觀察し、其所から得られた材料を中心的材料として研究を進めて來た。斯かる行き方を採つて居る學者が他にもあるかどうか、私は未だ出逢つて居ない。此の新しい行き方は在來の行き方に依つては這入り得なかつた、深い細かい點にまでも這入り行く事を得させてくれる。

内省に依つて觀察され得る性的生活の内容は、性的經驗である。私が此迄に經驗といふものは、内省に依つて觀察され得る一切の事柄を指して云ふのである。例へば感覺、氣分、快不快、情、慾、亢奮などは、何れも私の云ふ經驗である。經驗の中に就て、直接間接に異性に關聯した經驗を、特に性的經驗と呼ぶのである。

私は或種の性的經驗をば、春的經驗と名付け、其他の性的經驗をば、非春的經驗と名付けて居る。春的經驗の中には、春的亢奮、春的聯想、春的慾望、春的想像、春的性愛其他の、種々なる經驗がある。非春的經驗の中にも非春的亢奮、非春的聯想、非春的慾望、非

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

春的性愛、其他の種々なる經驗がある。內省に依つて是等兩種の經驗を判別するのは大抵は左程に困難ではない。併し其れを言葉の上に云ひ表はすのは、困難である。或は不可能である。私は其故自分の研究錄『相對』に於ては、春的經驗のあるものに非春的經驗のあるものとが經驗せられた二つの著しい場合を語り、其れに依つて如何なるものが春的經驗であり、如何なるものが非春的經驗であるかを推察してもらひ、其の上で春的經驗と非春的經驗とが孰れの點に於て違ふのかを語つて居る。

其處には春的亢奮の一例と、非春的亢奮の一例とが出してある。春的亢奮の例の方は、私が青年期の初め頃に於て、春畫を見て亢奮を經驗したことが示したものである。其の時の亢奮が春的亢奮であつたのである。其の亢奮には勃起が伴つてゐた。是れと類似の亢奮が、春的亢奮なのである。

第二の非春的亢奮の例は私の持つた左の經驗を語つたものである。

私の青年期の終りに近い頃の事である。私は或る所へ通つて居た。其所へ通ふがために、私は朝は大抵毎日同じ時刻に同じ所を歩いて居た。私以外にも、私の如くに同じ所を歩く人々が澤山あつた。私は毎朝幾人もの人々に行き逢ひ、幾人もの人々を追ひ越した。

何時も私に追ひ越さるゝ人々の中に一人の婦人があつた。私は何時の間にか其の人の後

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

姿を見覺えるやうになつた。私はついぞ一度も其の人の顏を見た事はなかつた。然し其の人の後姿は妙に私の心を引き附けるやうになつに來た。朝の出掛けに此の人の後姿を見ると云ふ事が、私に取つて一つの樂みになつて來た。其れと共に私は此の人の傍を通り過ぐる時に、一種の亢奮を經驗するやうになつて來た。心は亢奮に特有の狀態に陷り、息は詰まるやうな感じがした。兩足の筋は縮るやうな感じがして、歩むのに骨が折れる程であつた。頸は左右から抑へ附けられたやうな風で、只だ前方を一直線に見つめるより外に仕方がなかつた。

私は此の人に依つて、幾度か此の亢奮を經驗した。之れは慥かに性的亢奮であつた。然し其れは非春的亢奮であつた。

春的亢奮と非春的亢奮とは、少くも二つの著しい點に於て異なつて居る。第一に春的亢奮には大抵は勃起が伴ふ。然し非春的亢奮には其れは決して伴はない。第二に春的亢奮には、非春的亢奮に伴はない一種の心持が伴ふ。此の二つの點は春的亢奮との間に存する二つの著しい相異點である。然し此の二つはすべての春的經驗とすべての非春的經驗との間に常に存する相異點ではない。何となれば種々なる春的經驗の中には、勃起を伴はないものが屢々經驗せられるからである。然し春的亢奮には伴ふけれども、非春的亢奮には伴は

ない所の一種の心持は何れの春的經驗にも伴つて居るのである。此の心持に伴はれない春的經驗はないのである。而して又た此の心持に伴はるゝ非春的經驗も少いのである。されば此の一種の心持はすべての春的經驗とすべての非春的經驗との間に存する相異點である。

春的經驗の核

何れの性的經驗も此の一種の心持にさへ伴はるゝならば、亢奮には伴はれなくとも、勃起には伴はれなくとも、春的經驗たるに於ては充分である。されば此の一種の心持は春的經驗たらしむる所の重要なる經驗である。此の一種の心持は實に春的經驗の核とも云ふ可きものである。

此の心持は大抵は他の性的經驗に伴つて經驗せられる。然し一旦現はれて後には必ずしも他の諸經驗に伴存するのではない。單獨に殘存することも屢々ある。又た時々には他の性的經驗に伴つてではなく、單獨に呼び起さるゝ事もある。此の心持が獨り離れて現はれて居る時には、其れは寧ろ沈むだ穩かな心持である。私は此の沈むだ穩かな心持に於てある時には、恰かも淡い沈むだ悲みの氣分に於ける時の如く、何所を眺めると云ふ事もなく、何を思ふと云ふこともなく、ボンヤリと眼前を眺めて居る事が屢々ある。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

斯くの如くにして此の心持は、他のすべての春的經驗に伴ふて之れを春的經驗たらしむるばかりでなく、又た自ら單獨に一個の春的經驗たるを得るのである。私の今までの觀察に依れば、此の心持は最早や分つ可からざる單純なる心持であるらしい。私はすべての春的經驗の核とも云ふ可き、此の一種の心持を春的氣分と名付けて居る。

此の春的經驗を見出したと云ふ事及び此の春的氣分の有無に依つて、性的經驗を春的及び非春的の二種に分類したと云ふことは、性的生活の研究の上に重要なる出來事であつたのである、私は此の分類を爲し得るに至るまでは、性的生活の內容を分類したり、比較したり、細かに調べて見たりする上に於て、誠に當惑して居つた。モルやエリスが試みた分類もあるけれど、其れは餘りに漠として居つた、內省上から性的生活を微に入り、細に入つて研究するには、餘り役に立つものではなかつた。然るに春的非春的の區別が出來るやうになつてからは、春的經驗は春的經驗として、非春的經驗は非春的經驗として、極めて細かな處にまで、分類を進めて行くことが出來る樣に途が開けて來た、春的性愛と非春的性愛とをハッキリと區別することが出來たのなどが其の一例である。

前にも云つたやうに、性愛には春的性愛と非春的性愛とがある。春的性愛は春的氣分及びその他の春的經驗と聯合してゐる經驗である。非春的性要はこれらの春的經驗と聯合し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

て居らない性愛である。私は前者を戀愛と呼び、後者を性的友愛と呼んで居る。戀愛の對照をば戀人と呼び、性的友愛の對照をば性友と呼んで居る。

戀愛の方は其の實例が澤山に得られて居る。又たそれは得られ易い。併し性的友愛の方は、まだ學問上は餘り取扱はれて居らないやうである。之れはプラトーン的戀愛といふ言葉によつて時として は示されて來た。けれどもかゝる意味に於てのプラトーン的戀愛は、まだ餘り詳しい學問上の研究を受けて居らないやうである。學者の中には之れの存在を否定するものさへある。クラフト、エービングは其の一人である、エリスは其の『性の心理の研究』の中に於て、かゝる性愛の存在を認めて居るが、詳しい例は出してゐない。且又た斯かる性愛は、劇しい戀愛の生活を通り過ぎた人に於て、主にあるのだと考へて居る。併し私は自ら青年期の後半に於て著しい性的友愛を經驗した。其後に於ても經驗した。今も尙ほ經驗してゐる。私は其の著しい實例を可なり詳しく『相對』に於て談つて居る。私は又た他の幾人かの人々からも、矢張同樣の性愛の經驗を聽くことが出來た。性的友愛の存在は明かに事實である。又た夫れは戀愛以前に於ても、經驗せられ得ることが明かである。私は此の種の性愛によつて、之れまで何れ程自分の生活を豐富にされて來たか解らない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

性的友愛と戀愛とは、其の性質が違つて居るのではあるけれども、經驗の未だ乏しい若い人々によつて、時には其れが混合せられる。性的友愛を戀愛と思ひ誤まり、結婚の後に充し難い不滿と囘復し難い失望とを經驗する場合がある。見誤まられずに行くならば性的友愛は、未だ戀愛時代に這入らない若い人々を淸よく保つて行く上に於て、健全なる戀愛に導き行く上に於て、何れ程大なる力であるか解らない。生活の內容がそれに依つて、何れ程豐かにされるか解らない。

本人自身ではなく周圍の人々が此の二つの性愛を混合する場合は、更らに一層多いやうである。其の混合の結果、幸ひに性的性愛を樂みつゝある若い人々から、其の幸福と力とを奪ひ去らうとする事は、屢々起つて來る事柄である。悲しむ可き事柄である。併し學問上から此れ等の性愛の區別、性質等が明かにせられなかつた間は其れもやむを得ないとして、今は新しい研究に依つて、其れ等の事が幾分か明かにせられ、實際の生活の上に參考となる可き智識が與へられるやうになつて來たのであるから之れから後は、然ういふ悲慘な事を現出させないやうにして欲しいと私は念じて居る。性的聯想にも、性的慾習にも、性的想像にも春的と非春的との區別がある。快感にも不快感にも、春的と非春的との區別がある。それ等各々の經驗の中に、又た實に幾つもの種類がある。例へば春的慾望の中に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は、春的接近慾、春的觸接慾、春的接吻慾、春的懷抱慾、交接慾、春的求智慾、春的鑑賞慾、其他の種々なる慾望がある。其等の種々なる慾望の中に、又たそれぞれ幾つも種類がある。例へば春的懷抱慾だけを見ても、或は懷抱の型式によつて、或は對照の性質によつて、或は滿足に達する經路の相違によつて、幾つもの種類に分類せられる。性的生活の内容は研究を進めて行けば行く程、復雜に見へて來る。何處まで復雜なのか私にはまだ見當が附かない。

性的經驗を惹き起す原因になる處のものを、私は性的刺戟と呼んで居る。性的刺戟中で、春的非春的經驗を惹き起す處のものは、春的刺戟であり、非春的經驗を惹き起す處のものは、非春的刺戟である。性的刺戟は個人々々に依つても異り、又た同一の個人にあつても、成熟の度合と經驗の多少とに依つて異つて行く。併し概して云へば性的刺戟となる處のものは、異情に存する性的特徴と表出せられたる性的經驗である。

爰に性的特徴と云ふのは、兩性の心身の構造及び作用を比較する時に認めらるる男性の特徴と女性の特徴とを云ふのである。それには第一義のものと、第二義のものとがある。直換に生殖に關係ある作用及び機官が、第一義の性的特徴とせられ、其他の性的特徴が、第二義のものにせられて居る。例へば生殖器に於ける兩性の特徴は第一義の性的特徴であ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つて、乳房、臀部、顏面、毛髮等に於ける兩性の特徵は、第二義の性的特徵である。第一義の特徵は其の數が割合に少く、且つ相違が著しいけれども、第二義の方は其の數が甚だ多く、且つ相違の著しいものよりも著しくないものゝ方が、寧ろ多いのである。例へば成熟した男女の乳房などは一見しても其の特徵が或る度合までは認められるけれども、味覺の鋭さに於ける性的特徵などは、多數の男女に就いて調べ、男性の方の平均と、女性の方の平均とを較べ合せて、初めて解るのである。第二義の特徵の中には、後者の樣なものが寧ろ多いのである。此の方面はエリスに依つて、最もよく研究せられて居る。男は女の性的特徵を以て刺戟せられ、女は男の性的特徵によつて刺戟せられてゆく。刺戟の性質と刺戟に對する反應の工合とは、實に多種多樣である。正當なる人々に異常なる人々との相違が、此處に於て最も著しく表はれてくる。別けても春的刺戟の性質と刺戟に對する反應の工合とに於て其れが著しい。同じく正當なる人々に於ても、個人の性格の如何に依つても、違ひ、過去の經驗の有無多少によつても違ひ、同一なる個人に於ても時と場合とに依つても違ひ、實に復雜なる研究題目を形造つて居る。同樣のことが性的刺戟としての表出せられた性的經驗に就いても云はれ得る。受くる側に於ての性格の如何、過去の經驗の有無多少、與ふる側に於ての表出の型式、表出せられる經驗の種類、表出に於ける周圍の事情、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

受くる側に於ける内部の事情、其他の樣々なる或情が集まつて、之れも亦た實に復雜なる研究題目となつて居る。異常なる人々に於ける性的刺戟、わけても春的刺戟と其れに對する反應とは、クラフトエービング、エリス、ブロッホ、フロイド、其の他多數の學者に依つて取り扱はれて來た。正常なる人々に於けるものは、エリスに依つて、最も多く取り扱はれて居る。

二、男の戀愛と女の戀愛

靑鞜の五月號の卷頭にエレンケーの言葉が載せてある。それは男の戀愛と女の戀愛との相違についての言葉である。其中にはこんなことが云つてある。

「女子にあつて戀愛は通常靈性から官能に進む、そして時々そこまで達しないこともある。これに反し男子にあつてはそれが通常官能から靈性に進み、時々その旅程を終らないことがある——これが兩者にとつて男女間に現存する告別の最も痛ましいものがある」

同じ號の百十二頁にらいてうはエレンケーの此の言葉を聞いで來て、其處へ附け加へて云つて居る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「私の過去半生に於ける悲しい、痛ましい結果を見せずに置かなかつた戀愛的經驗はこの言葉を心底から肯定させずには置かない。

私はこの言葉が忘れられない。そしてこの言葉から色々のことを考へさせられる。自分がこれ迄に經驗して來た二三の戀愛が回想される。そしてそれがあまりによくこの言葉によつて説明されてゐるに驚く。」

らいてうがエレンケーの言葉を成程と思つたのは、彼女自身の經驗丈けを土臺にして判斷したものであらう。彼女が成程と思つたのは無理もないことであらうけれど、エレン、ケーの言葉は其のまゝ受け取る譯には行かない斷定である。

エレン、ケーが感能と愛で云つて居るのは、私が春的慾望と云つて居るものを指すのであらう。それから靈性と云つて居るのは愛を指して居るのであらう。男はまだ愛するといふまでには行かない女に對しても、春的慾望を掛るけれども、女の方では愛しない、男に對しては其の樣な慾望を經驗しない。愛が生じて後に慾望が表はれるのだといふのが、エレン、ケーの意味する處であるらしい。

エレン、ケーの言葉をそう云ふ意味に解するならば、戀愛に於ける、此の相違は男と女とに依つての相違ではない、之れは男なり女なりが既に異性を感能上から知つて居るか否

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かに依つて來る相違である。既に感能から異性を知つて居るものは、男にもせよ女にもせよ、未だ愛するといふ程までに行つてゐない異性に對しても、春的慾望を持つことが屢々ある。けれども男にもせよ女にもせよ、まだ感能上から異性を知つてゐないものは、愛しない異性に對して春的慾望を持つと云ふことは、それ程多くない。愛しない異性を自分の春的慾望の對象にすると云ふことは、男にもせよ女にもせよ、既に春的觸接の經驗を持つて居るものに多く、それをまだ持たないものには少ない。さればこれは男女によつての違ひではなくして、春的觸接を經驗して居るか居らないかによつて、起つて來る相違である。

私は種々なる人々の性的生活を研究して行くうちに幾度も出會つたのは、まだ女に對して春的慾望の滿足を要求しやうと云ふ所まで進むでゐない男が、年長の女によつて誘はれて、初めて春的慾望と其れの滿足とを經驗させられて居るのである。かゝる場合に於ける女は多くは既に感能上から男を知つて居る女である。そうしてかゝる女が年少の男を誘ふ時に、必ずしも何處までも其の男を愛して行かうとするのではなく、寧ろ主として感能上の要求から出て居るらしいのである。

らいてうが過去に於て出會つた二三の戀愛に於てエレン、ケーが云つたやうな事柄があつたとすれば、其れはらいてうの相手になつた男が、既に女を知つてゐたか、それでなけ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れば、既に充分成熟して春的慾望が充分强烈になつて居つた人々があつたのだらうと察せられる。それに同時にらいてう自身はまだ男を知らなかつたか、まだ充分成熟して居なかつたか、或は其の兩者であつたかである。さればらいてうが經驗した二三の戀愛に於て男はまだ女に對して愛を持たないから女を自由にしようとしたとし、らいてう自身は感能上の要求の現はれない前に靈性上の要求を感じて居つたとするならば、之れは相手が男であり、らいてうが女である處から來た相違ではなくして、相手の方が既に經驗を有する人々か、或は最早充分成熟し切つて居つた人であつたのと、らいてうがそうでなかつたのとから來た相違なのである。

さればらいてうは自分の經驗丈けによつて判斷してエレン、ケーの言葉を成程と思つたのは無理もないことであるけれども、エレン、ケーの言葉は其のまゝには受けることの出來ない斷定なのである。

三、同時に二人以上を戀しても可い場合

靑鞜の六月號で、らいてうが田村俊子の「焙烙の刑」を評して居る。其れで見ると慶次の妻龍子は夫に隱して他の男宏三を愛したのを夫に知られて責められた。然るに龍子は宏三を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

愛すのも慶次を愛すのも自分の意志なのだから、何も宏三を愛したからと云つて慶次に詫びる必要はない。自分のやつたことは不道徳ではないと云ひ張つた。之れは随分無茶な主張である。

自分の意志でやることならば詫びないでもよいと云ふのであるならば、自分の意志で他人をなぐつても、お詫びをする必要がなく、自分の意志で虚を云ふならば、それは不道徳でなく、自分の意志で人を殺すなら、それは不道徳でないと云ふことになつて來る。それでは餘りに無茶である。

不道徳であるか無いかと云ふことは自分の意志によつてやつたか、何うかによつて決められるものではあるまい。龍子は夫を愛して居りながら同時に他の男を愛したのは罪惡であるか否かと云ふことは他の點から考へられなければならない。

女が同時に二人の男を、愛するといふことは罪惡であるか無いかと云ふことは、無條件には決められない、男と女との間の約束の結び方によつて、それは罪惡ともなり、そうでなくも成るのである。

若し二人の男女がその愛を取交はす時に二人が互に「私は貴方より他の如何なる男をも愛しません」「私は貴方より他に如何なる女をも愛しません」といふやうな約束を取交はし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たとするならば、後に到りて女が他の男を愛するのは、濟まない譯である、男が他の女を愛するのも濟まない譯である。併し最初愛を取交はす時に兩人が「私は後に他の女を愛する樣になるかも知れませんが、夫れでもよろしいですか」「私は後に他の男を愛する樣になるかも知れませんが、それで差支へありませんか。」といふやうなことを問交はし、それでもよろしいと云ふことになつたのであるならば、後に到つて男が他の女を愛し、女が他の男を愛するに到つたとても何の差支へもないことである。

最初此の樣によいやうに約束を取かはさなかつたにしても、其の兩人が持つて居る社會なり、又は其の兩人が加つて居る特殊の團體なりに、既に認められて居る習慣なり道德なりがあるとし、兩人が又た無言のうちにもせよ其れを認めて居つたとすれば兩人の行爲は其の習慣なり道德なりによつて判斷せられなければならない。

今龍子の慶次との場合に於ては、最初の約束が何うなつて居つたことであらうか。兩人の爭論の中には別に最初の約束が何うであつたからと云ふことは出て來ないとすれば、二人は止むを得ず周圍の習慣なり道德なりに依て判斷せられねばならないかも知れない。併し最初兩人が周圍に存する習慣なり道德なりを矢張自分のものだと認めては居らなかつたにすれば、二人は今となつて彼之れ爭つても仕方がないのである。慶次は妻の行爲を罪惡

だと責める譯けには行かない。龍子は自分の行爲が不道徳でないと主張する譯には行なかい。二人の爭論は全く根據のない水掛論に過ぎないのである。

らいてうは女が同時に二人の男を愛しても罪惡でない場合があると云つて居る。

「女がふたりの男を(ことに一方が年上で一方が年下といふやうな場合)同時に可成り深く愛するやうになるのはあり得べきことだらう。そしてそれは時として女の復雜な戀愛的要求から出た自然なもので、人格的に何の矛盾も感じない場合もあり得べきことだらう。そして若しかういふ場合、一方の男によつて滿される戀愛的要求と他の一方の男になつて滿される戀愛的要求とは全然性質のことなるものである場合、しかも一方の男丈けでは到底自分の戀愛的要求の全部を滿すことが不可能だといふ場合は(これは不幸なことには違ひないが)二人の男を同時に愛すにいいが外面的にはともあれ内面的道德の立場から見れば罪惡だとは決して言へない。しかも道德は法律とは違ふのだから本來から言へば内面的なものでなければならないのはいふ迄もないことだ。」

斯かる場合に於ても女は自分の行爲が罪惡でないと無條件に云ひ得るのではない。矢張男との約束によつて孰れとも決まるのである。若し女が男に對して豫め自分の戀愛の自由を宥して貰つて居るならば、後に到つて何人の男を愛しようともそれは差し支へあるまい

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けれども、そうでなしに初めは貴方許りを愛すると云ふやうなことをいつて置いて而かも後に到つて其の男丈けで不滿を感じ他の男を愛すると云ふのは濟まない譯である。

愛の關係は愛する二人の間の關係であるのだから、他の人々に特別の影響を及ぼさない限りに於ては二人の間に於て如何樣とも取り決めることが出來る。只在來の習慣や他人から敎へられた道德丈けを守つて行く人々は、とにかくそこでそうでないならば、其れ其れ其の場合場合に二人の間に明かな約束を取りかはして進んで行くがよろしい。自分が好む好まぬに係らず在來の習慣なり道德なりを奉じて行くならば別に新たに約束を取かはす手數はいらないけれども、然うでない時には何等か標準になるべき約束を定めて置かないならば後に到つて何とかかとか云つて見た處で判斷の下し樣がなくなつてしまふ。龍子に慶次の爭論が其の一例である。在來の道德に從ふのでもなくされぱと云つて兩人の間にハッキリした譯の解つた約束があるのでもなく、徒らに根もない主張を取かはして爭つて居ると云ふことは、誠に困つたものである。

併し愛に一言云つて置きたいことがある。愛は何う變化して行くものやら解らぬのである。一生涯變らぬのもあれば、僅かの日數を經るうちに變つて仕まふものもある。されば愛を取かはす時に後にまでも變らぬなぞと誓ふのは無理なことである。意志を以て何うす

ることも出來ない性質のものであるが、たとへ如何樣に堅く約束を守らうとしても變つて行く愛を變せない樣にするといふことは望まれ得ることではない。又た其の男なり女なりに注がる愛では異りがないにしても、新たに他の男なり女なりに甚大なる愛が古い愛に並んで表はれて來ないとも限らない。

されば變らぬ愛を誓ふといふことは見合せる方が安全である。若しウッカリ誓つて仕まふなら後になつて愛の變つた時に何と責められても仕方がない。私の意志だから誰れを愛しても不道德でないと云つても通らない。

變らぬを誓ふといふことが出來ないとなると隨分心細くも思はれ樣が、併し必らず變らぬといふことでもないのだと變るよりも變らぬ方が多い樣だし、これに兩人が努めて相手を了解し互に、相手に出來る丈け多くの滿足を與へて行くやうに努める時には努めないよりは愛の減退や變異を招ぐことが出來るのだから、全く不安に許り思ふ必要はない。唯しかし人の命の解らぬやうに愛の命も解らぬものだと云ふ丈の覺悟は必要であらう。但し愛が變ると云ふのは其の人によるのではないかと思はれて居る。併し如何なる人の愛が變り、如何なる人の愛が變るのか私にはまだ其處が解つてゐない。孰れそういふことも出來る丈け研究して見たいと思つて居る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

四、戀愛の變化と其の變化の隱蔽

疾妬は獨專慾の滿足が擾亂せられた場合の心持ちである。この場合に於て男が女に對して疾妬を持つたとするならば、男は女に對して獨專慾を有して居つたに相違ない。若し彼が其の愛の關係の成立つた當初から此の女に對して獨專慾を持つて居つたとすれば、彼は女が自分以外の男を愛することを宥しはしなかつたであらう。女の戀愛を自分一人に集中させ、女を自分一人の戀人として置きたいと云ふ慾望が彼の中に當初からあつたとすれば、何等かその慾望を打敗かす丈けのものがなかつたならば、彼は女を他の男にも分有させることを宥しはしなかつたであらう。

戀を打かはす時に於て男女の兩方が互に相手に對して獨專慾を有してゐないか、それとも例へば獨專慾が存してゐても、それを抑へる丈けの力ある他のものが存してゐないならば、兩人が互に其の相手を他の男なり女なりに分有させることをゆるすといふことは容易なことではあるまい。「私は貴方が私以外の男を別に愛しなすつても構ひません」「私は貴方が私以外の女を愛しなすつても構ひません」といふやうな事を云ひ交はし、後に到つて男が他の女を愛してもよい、女が他の男を愛してもよいと云ふことを約束するなぞと云ふこ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とは中々出來ないことであらう。

愛を取り交した當時は互に獨專慾を持つて居つたが爲めに、相手が自分以外の男なり女なりを愛する事をゆるし得なかつたにしても、後に到つて相方の愛が冷却し、同時に獨專慾も失せて行つた場合には、兩人は互に他人のやうな行動を採る事が出來るであらう。女が他の男を愛しても、男は怒りを感せすに濟むであらう。男が他の女を愛するのを見ても、女は無頓着で居り得るであらう。それでも相方の愛が共に冷却するのではない、男なり女なり孰れか一方のみの愛が冷却し、他の一方は猶ほ以前の愛を持ち續けて居る場合は誠に困難である。變らずに愛を持つてゐる側は、愛を失つた側をうらむであらう、或は怒るであらう。若し進んで其のものが他に戀人を持つやうなことになつたならば、疾妬を持つのが自然であらう。かゝる場合に於て愛を失つた側の行動は是認せらる可きものであらうか、非難せらるべきものであらうか。

望ましいことは第一の機會に於て、後々の不測の場合を勘定の中に入れ、何んなことが起つても差し閊へのないような約束を取り交はして置くのである。愛の變るのは或る度合までは努力によつて招ぎ得らるゝ場合があるかも知れないけれど、如何ともすることの出來ない場合が多い。愛し初めた時には他に戀人を持つと云ふやうなことは、考へもしない

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人でも、後々に至つて何うするものやら解らない。然るに其の時の氣持ち丈けで長い將來のことまでをも約束するならば、飛んだことにならないとも限らない。若し明かに約束が出來て居るならば、後に至つて例へ一方は愛を依然として持つてゐても、他の一方を責むる譯には行かない。嫉妬を感ずると云ふことは免れ得ない場合に於ても、相手を責むる譯には行かない。けれども前以てハッキリした約束を取交して置かないならば後に到つて愛が褪めたり、他に戀人が出來たりして、今までの愛人から責められても仕方がない。

されば同時に二人の戀人を持つことが是認せらるべきや否やは、單に其の人の愛のみを見て決せらるべきものではなく、其の人と其の人の、兩人との約束によつて主として決めらる可きものである。

併し約束をしてもしなくても、愛情の不變を前以て契ると云ふことは間違ひである。契るのは愛情の性質を知らないからのことである。さればかゝる契は効能のないものと見做さるべきが當然である。されば如何樣に愛情が變らうとも、幾人の戀人を持つに至らうとも、それを責むるといふことは無理なことである。愛が變らないのも其の人の努力の結果と云ふ譯ではなく、變るもの其人の不信の結果と云ふ譯ではなく、大抵は致し方のないものである。されば愛の關係といふものは永く續くものか、途中に於て切れるものか解らな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いものであるといふことを認め、從つて愛が變つても、或は變らないでも、其れは道德不道德の判別外に置かゝる可きもの、若くは皆な道德的のものと認めてやるのが、道理に叶つた行き方なのである。

愛が失せたる場合或は他に戀人を持つに至つた場合に於て屢々起つてくるのは自分の愛の失せたると、或は自分が新たに戀人を持つに至つたといふことを陰すといふことである。自分が今まで通りであるかのやうに裝るといふことである。これは大抵の場合に於て不道德であらうと思はれる。愛が失せたのもやむを得ない。新たに戀人を持つに至つたのも已むを得ない。けれどもそれを陰すと云ふことは困まつたものである。これを表はすのは苦しいことであらう、然しこれを陰すのは恐らく罪惡である。愛の變つた場合や新たなる戀の生れた場合に於て起る罪惡の大なる部分はこれである。自分の愛を立てるか、それとも自分の身分を保つて行くか、自分の眞實を表はして行くか、それとも世間の評判を失はずに行くか、それ等の問題が屢々起つてくるのも此の點である。徹底した眞實の生活が送りたいならば、此の點に於ても眞實であらねばならぬ。不道德なのは愛の變異ではない。愛の變易の隱蔽である。

今龍子と慶次との場合に於ても此の事がいはれ得る。龍子が他の男を愛するに至つたの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は愛情の性質から云へば致し方のないことである。これを不道德に見るのは無理である。併し龍子が他の男を愛するに到りながら、それを打明けずに居つたとするならば、又た他の男を愛するに到りながら、そうでないかのやうな振りをして居つたとするならば、そう云ふ例の態度を暫らくの間でも持つて居つたといふは不道德である。何う云ふ處からして他の男を愛するに至つたにしても、其れは構はない。けれども如何なる理由からして虛僞の態度を採るに到つたにしても、それは恐らく不道德である。

　但し私は凡ての虛僞が不道德であると思ふのではない。唯多くの場合に於ては虛僞は不道德であると思ふのである。戀に關して相手を欺くやうなのは大抵は罪惡であると思つて居るのである。是れは又た別に詳しく論じなければならない大きな問題である。如何なる場合に於て虛僞が罪惡であるか、如何なる場合に於て虛僞が罪惡ではないか、それは別に取扱はれねばならない大きな問題である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜感

もう少しすべての事物に對して執着を持ちたい。あまりに事々に自分が淡泊すぎるのが腹立たしい。一つの心持をぢつと何時までも把持してゐられゝばどの點から云つてももつと何物かをどんな小さな事實を齎らすに相違ない。私はあまりに忘れつぽい。そればかりでなく忘れやうと努力する。あきらめやうと努力する。

矛盾は私達の生長に必要なものである。どうかして矛盾を失くしやうとする闘へが私達を種々な方面へ導いてゆく。それだのに私達はそれを無爲に逃がし去らうと努力してゐる。凡ての點に些しの矛盾も感じない人は幸福のやうに見えるけれど本當は生長を阻まれた不幸な人である。然し不思議に皆その方へ走つてゆく。

この頃私の知り合ひになつた一人の女の人繼子いぢめをするさうだ。私はいろいろな事を聞いた。いぢらしい話のありつ丈けを聞いた。私は母親の無情を憤る心で一杯になつた。その子供は何時も私たちに可愛いゝ笑かほを見せて飛びついて來る。

私は自分がまるで家庭の暖い愛情に飢えながら育つて來た爲めに殊にさう云ふ子供のちよつとした物の感じ方の他人にはたゞ不思議だと思はれるやうな事でも私にははつきりわかる。私はそう云ふ子供を見る度びに時分の或る時期を追想する。私は並み外れてその子が他人を慕ふ人なつつこさが可愛さうだ。私は自分が今人の母となつて子供とは違つた立場から繼子いぢめのことを考へて見る。

主として繼子をいぢめると云ふのは實母に對する嫉妬が子供の上に及ぶのがそうらしい。それは少しも無理のない話だ。自分にして見てもその場合は矢張りさうかもしれない。殊に子供が僻　でゐる場合ひには猶更そうであるかもしれない。けれども若し私がY夫人の場合にあの子供に對してある憎惡をどうしても取り去ることの出來ない場合ひにどうするだらうと考へると矢張り夫の自分に對する愛と子供に對する愛とをきつぱりと量らして見るより他に仕方はない。そうして夫の愛が子供の方に強かつた場合ひには自身で身を引くか或は又も自分の愛が夫を離さない場合ひにはその子供に對する憎惡は夫の一部分として義務的にとり扱ふより他はない。義務的とは子供と深い交渉をしないでと云ふ意味で子供の上に自分の重味を持たさないことである。その方が子供にとつても自分にとつても結局深い交渉を持つよりも樂である。或はまたあのY夫人がもう少し物を考へる事の出來る人であつて欲しい。自分が子供に對して持つ憎惡が何の爲

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

めであるかと云ふやうな事を自省の出來る判別の出來る人であつて欲しい。Y夫人がどの方面に向いても考へることなしにすべてを感情のまゝに動いてゐることは子供の爲めばかりでなく夫人自身もその爲めにどの位不幸を感じてゐられるかしれない。Y夫人ばかりでなく世間にはどの位あの繼子問題に困つてゐる人があるかしれない。併しすべて自分の態度次第である。すこし物事を正確に考へる事の出來る人なら直ぐにその解決はつく。多くの人は憎惡を去ることに苦心するらしい。また他でもそれを要求するらしい。然しそれは可なりむりな事だと私は思ふ。それを抑へやうとすればする程反撥的にそれが強くなるらしい。それは殊に無智な人にあつては猶更はげしくなるらしい。憎惡を感ずると云ふことがその人にとつて少しも不自然でないかぎりそれを抑へることは不必要である。けれどそれと全くはなれて子供の爲めにまだ自分のために最もいゝ方法を講ずることは必要である。子供に對する憎惡のために自分自身のすべて迄がその中に引き込まれてしまふことは不幸だと私は思ふ。それに引き込まれない丈けの用心のある人ならばきつと自分の爲めでも子供の爲にも最上の道を見出し得る人である。

讀賣の婦人附錄の愚劣さに每朝不快を感ずる。就中私を憤らせるのは身の上相談である。先づ問ひの方だ。あんなくだらない事まで他人に相談しなければ仕末のつかないやうないくじのない人があゝもゐるかと思ふと腹立たしくなつて來る。實に下だらない人達だ。けれども答へる人に至つては更に言語同斷である。あの答へはどなただかしらないが何時もあの人の答へるのは妥協かでなくば淺薄な到底行ふことの出來ないあの人の理想であるらしい愛他主義か或はまだ小さな女の意地である。それ以外には何物もない。最近私の記憶に殘つてゐるのは子供のない人が妻の妹の子を貰はうかどうしやう妻は血統を續ける爲めに妾をおけと云ふといふ相談であつた。それに對して妹の子を貰へと云つた迄はまだいゝとして妾をおけと云ふのはあなたの奧さんの人格の低い證據ですから離婚しておしまひなさいと云ふ驚くべき答へであつた。實に亂暴にも程があると私は云ひたくなつた。その言葉が如何な場合ひに云ひ出されたか、奧さんの性格がどうあるか思想がどうだかどんな敎育をうけたかあるひは本當の氣持で云つたのかアイロニカルにさう云ふことを云つたのではないかなど云ふ事のどの一つをも知らないでたゞわづかな言葉で人格云々はまだいゝとして他人の結合に對して無暗と離婚なさいましはと何たる云ひ草だらう。私は本當に呆れてしまつた。こんな人に身の上相談を持ちかける人も人だがこんな答へに滿足してゐるやうならまだ相談しない方がましだ。そう云ふ人達ばか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りだからあの附錄が宣言とはまるでかけはなれたありふれた婦人雜誌とすこしも違はない愚劣なものなのも不思議はない。

「私は現代の傾向を要約して「量」(コンテイテイ)であると云ひたい。群集と群集精神とは到る處にはびこつて「質」(クオリテイ)を破壞しつゝある。今や私どもの全生活――生產、政治、敎育――は全く數と量との上におかれてゐる。」とエンマゴルドマンは云つた。

本當に、本當にさうだ。多數者の橫暴は現今に於ては常に全く正義とその位置をかへてゐる。

私はまだソシヤクストでもないしアナアキストでもない。けれどもそれ等に對して興味はもつてゐる。同情も持つてゐる。それは正しい主張であるからは。同情をもつのは當然である。興味をもつのは當然である。現在の日本のそれ等の人達は左程危險がられる程の人ではないと私は思ふ。あの人たちがまだいくら一生懸命になつたつて、さう急にその思想がすべてを捕へるものではない。今あの人達に加へられてゐる壓迫はあまりに激しすぎるやうだ。この人口の稠密した日本に社會主義者と目される人か三千人とはゐないやうだそしてそれ等の殆んどすべてが壓迫をおそれてゐるやうな人達ばかりださうだ。心細いことだと私は思ふ。眞實に主義の爲めに殉じ得る人は數へる程しかない。それではまだ〳〵運動を起すにも余地があると云はなければならない。平民新聞が二度出して二度發賣禁止の厄に遇つたことなどあまりに政府の小膽を暴露するものである。あの位は當然ではないか政府が果してそれ等の思想を抑けやうとするならば他にまだもつと激烈なことを云つてゐる人が澤山ある。それ等の人をなぜ壓迫しないのか。私はどう見ても彼等はたヾシヤクスト、アナーキストと云ふ名に怖れを抱いてゐるとしか思はれない。けれどもそれは當然のことかもしれない。私は彼等の橫暴を憤るよりも日本に於るソシアリストの團結の貧弱さを想ふ。あの大杉、荒畑兩氏のあれ丈けの仕事に、何等の積極的な助力を與へることも出來ないあの人たちの同志諸氏の意久地なさをおもふ。併しそれも無理のない事かもしれないが他はおいても、私はあれに匹敵する位の刊行物がもつと〳〵どし〳〵いろんな方面から出るのが當然だと思ふ。更に私達婦人としての立場からそれ等の主義者の夫人たちがもつと良人に同化せられることを望む。夫人は同志の結合が良人達の團結をどの位助けるものかと云ふことを考へられるならばもう少し廣い心持ちになられて欲しい。私が今迄直接間接に聞き知つた夫人達の行爲は或は態度はあまりにはがゆいものであつた。

「質」があのやうに拙劣なものでも現在に於ては數と量

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さで占むべからざる地位を占めてゐる。私達の虐待せられつゝある思想は「質」に於ては無論彼等のとは同一視すらも許せない。私達もこれからはたゞ「妥協せざる熱心と勇氣と決斷」に依つて、私達の正當な位置を取りかへさなければならない。そうしてやがて私達の「質」が「數」と「量」をもあはせ收め得るであらう。

三、十一、二七、野枝

水菓子屋

サツキ

十二月の冷たい〳〵風が吹きます晝、下駄の齒がカラ〳〵と鳴ります夜粋なお神さんは熱い熱い紅茶をわかしてお客様をお待ちしてゐます。本場のおみかんや林檎を召し上つて油繪をお覧になりながらいゝ香りのセイロンのお茶をおすゝりにお出下さいまし。寒い〳〵日に――。

編輯室より

□先月は大變發行が後れましたから今月はと思つてゐましたけれど矢張り原稿の集め方がおそかつたのと手廻しよくゆかないためにまた後れました。來月は新年號のことでもありますからすつとはやく切り上げてしまはうと思つてゐます、何卒あしからずお許るし下さいまし。

□平塚氏は十四日から廿日迄上京してゐられましたが、また御宿へ歸られました。氏の宿所は千葉縣御宿村須賀、長尾淺吉方です。なほ上駒込の宅はたゝまれましたので社はかりに私の宅においてゐます。私の處は小石川區竹早町八二です。

□廿七日の讀賣新聞に社の內部で何かゴタ〳〵でもあつて私が青鞜をやることになつたとか何とか妙な事が書いてありましたが決してそんなことはありません。委しいことは來月號に書きます。

□らてう氏の「現代と婦人の生活」か先月廿四日日月社から出版されました。なほ同氏の「戀愛と結婚」の譯書も今年一杯には玄黃社から出る筈です。

□哥津ちやんもこないだ一寸上京しました。相變らずのおかつちやんです、來月には是非何かお書き下さる筈。

□野上八重子さんも來年迄は辛抱が出來ずお正月は東京

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

でお迎へになる筈ださかまだ併し御歸京はない。お母様のお乳でお肥りになつたさうです。

□皐月さんのお店も繁昌いたして居ます。此度また店で直ぐと好きな果物を撰んで勝手に食べられるやうになりました。セイロンのおいしい紅茶ものめます。けれどそれよりも皐月さんが羽織りをぬいで筒袖のはんてんを着て前掛をしめて櫛卷きにして全くお神さんになりすまされた樣子はまた一段ちがひます。それを見にいつては皐月さんに失禮ですが、まあ見にゐらつしやる丈けでもゐらるしやいまし、白山坂の中途で直ぐにわかりやすい處です。

□新刊を寄贈して下さるのに御紹介しなければすみませんがどうもこのいそがしさでは目を通すことも出來ませんからお正月によんで二月號ですつかりまとめて紹介いたしますつもりです。何卒あしからず。

□小石川雜司ヶ谷町百、天弦堂から近代思想叢書が刊行される。生田長江氏の「ニイチエの超人の哲學」岩野泡鳴氏の「惡魔主義の思想と文藝、相馬御風氏の「個人主義の哲學」吉江孤雁氏の「神秘主義者の思想及び生活」高村光太郎氏の「印象主義の思想と藝術」等である。

□寄贈書籍

白日の夢　ストリンドベルヒ著　松本武雄譯　發行所　近代文藝社

生の闘爭　大杉榮著　發行所　新潮社

種の起原　ダアヰン著　大杉榮譯　發行所　新潮社

露西亞文學印象記　ゲオルグ、ブランデス著　瀬戸義直譯　發行所　中興館

現代と婦人の生活　平塚明著　發行所　日月社

自由思想　久津見蕨村著　發行所　文明社

樂齋の情趣と味ひ　彩一郎逢雄著　發行所　淸平調社

生ひ立ちの記　内藤千代子著　發行所　牧民社

短歌日記　發行所　東雲堂

□寄贈雜誌

中央公論、早稻田文學、帝國文學　三田文學、白樺、俳味、文章世界、ホトヽギス、新潮、創造、假面、新日本、蛇の舌、層雲、國民文學、東洋哲學、生活と藝術、新評論、新小説、赤い蛍、婦女新聞、微光、勞働者、淸平調、第三帝國、霧潮、婦女界、婦人の友、我等、蕊文、若き人々、心の花。

青鞜社概則

第一條　本社は女子の覺醒を促し、各自の天賦の特性を發揮せしめ、他日女流の天才を生まむ事を目的とす。

第二條　本社を青鞜社と稱す

第三條　本社の事務所を東京府下巣鴨町一ノ一六三に置く

第四條　本社は係員、社員、賛助員よりなる。

第五條　本社の目的を達する爲め左の事業をなす。

一、毎月一回機關雜誌青鞜を發刊すること。「青鞜」には係員、社員、賛助員の生活及思想を發表す。(但し補助團員の寄稿を發表することあるべし。

一、圖書出版

一、時々係員、社員の修養及研究會、並に事業上の相談會を開くこと。(但し賛助員は出席隨意たるべし)

一、毎年一回大會を開くこと、大會には賛助員を招待し講話を請ふことあるべし。

一、時に旅行を催すこと。

一、本社の事業を達するため別に補助團を組織す。

第六條　係員、社員、賛助員は女子に限る。

第七條　係員は本社の目的に賛同するのみならず。本社の事業を自己の生命とするものにして專ら幹部にありて、直接本社の事業に從事し。自己にその責任を負ふものとす。係員は毎月「青鞜」の配布を受く。

第八條　係員は在京社員の中より選擧す。

第九條　係員は四人とし、內二名は經營に、他の二名は編輯に從事す。

第十條　毎年九月在京社員會議を開き、係員を改選す。但し再選することを得

第十一條　係員には本社の經濟の許す限りは其勞力に對して多少の報酬をなすものとす。

第十二條　社員は本社の目的に賛同するのみならず本社の事業を自己の生命とするものにして雜誌「青鞜」の配布を受く。

第十三條　社員たらむことを希望する者は住所、姓名、年齡の外に履歷の大體と現在の境遇と入社の動機に十枚以上の原稿と(小說、戲曲、感想、詩歌、評論、飜譯いづれにてもよろし)最近の寫眞とを添へ本社宛申し込まるべし。

第十四條　賛助員は本社の目的に賛同し、雜誌「青鞜」に寄稿することを快諾せられたる文壇の諸先輩とす。賛助員は毎月青鞜の配布を受く。

第十五條　本社の事業を經濟的方面より助力するものを補助團員とす。

第十六條　補助團員は補助團規約によつて募集す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一冊金貳拾五錢(郵稅壹錢五厘)
■前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢(八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五拾錢(一ヶ年分)參圓
■廣告料(一頁)特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、(半頁)七圓
■振替貯金口座は(東京二一一一六青鞜社)に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る(但し一割增のこと)。
■編輯事務、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■雜誌購讀に關する一切の事務は青鞜社へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正三年十二月二　日印刷納本
大正三年十二月一　日發　行

禁轉載

東京府下巢鴨上駒込四一一
青鞜社內
編輯兼發行人　中野初
東京市神田區西小川町二丁目六番地
印刷人　篠田玉三
東京市神田區西小川町二丁目六番地
印刷所　大精社

發行所　東京府下巢鴨上駒込四一一　青鞜社　振替東京二一一一六番

發賣所　神田表神保町三番地　東京堂　電話本局四五六一番　振替東京二七〇番

ロンブロオゾオ著
辻潤先生譯
植竹文庫第二編

新刊

縮刷 天才論 全譯

新形總布製極美本
三百數十頁
一頁千餘字詰
寫眞數十個入
定價九拾五錢
郵税八錢

製本既成

期待せられたる天才研究の最大權威現はる。凡そ天才を論じてかくまで該博精緻なる科學的研究の根據に立脚し而も興味湧くが如きものは蓋し空前なり。取材の豐富なるは更に云はず、引照せられたる幾多の詩歌文章また一種獨特の文學を構成す。この書の基調たる天才と狂者の複雜微妙なる關係は狂者、犯罪者、癲癇病者等の辛辣なる心理的解剖となり、兼て精神病院内に於ける奇拔なる文學藝術の例證となつて現はる。科學書にして科學書に非ず、文學書にして文學書に非ず、心理學？生理學？形貌學？否、否、否、是等の企てなり。近代文藝を根底より理解せんと欲する人々は云ふまでもなく凡そ天才の眞に如何なるものなるかを知らんと欲する人々は先づこの書を讀め！天才はこの書に由つて愈々自己の天才を意識すべく、凡人は天才の眞相に接して驚嘆戰慄せん。譯文また的確明快眞に全譯の名に欺かず。挿入せる天才の風貌また大に讀者の感興を助くるものあるべし、敢て大方の耽讀を乞ふ。

■日本に唯一の全譯也 他に本書の飜譯ありと雖皆抄譯にして全譯にあらず （原稿紙九百枚の大作）

再版

植竹文庫第壹編 縮刷

サニン 全譯

アルツイバシエヴ作
武林無想庵譯
定價九十五錢
郵税八錢

近刊 植竹文庫第参編 全譯

罪と罰

ドストイエフスキー作
生田長江
生田春月 共譯

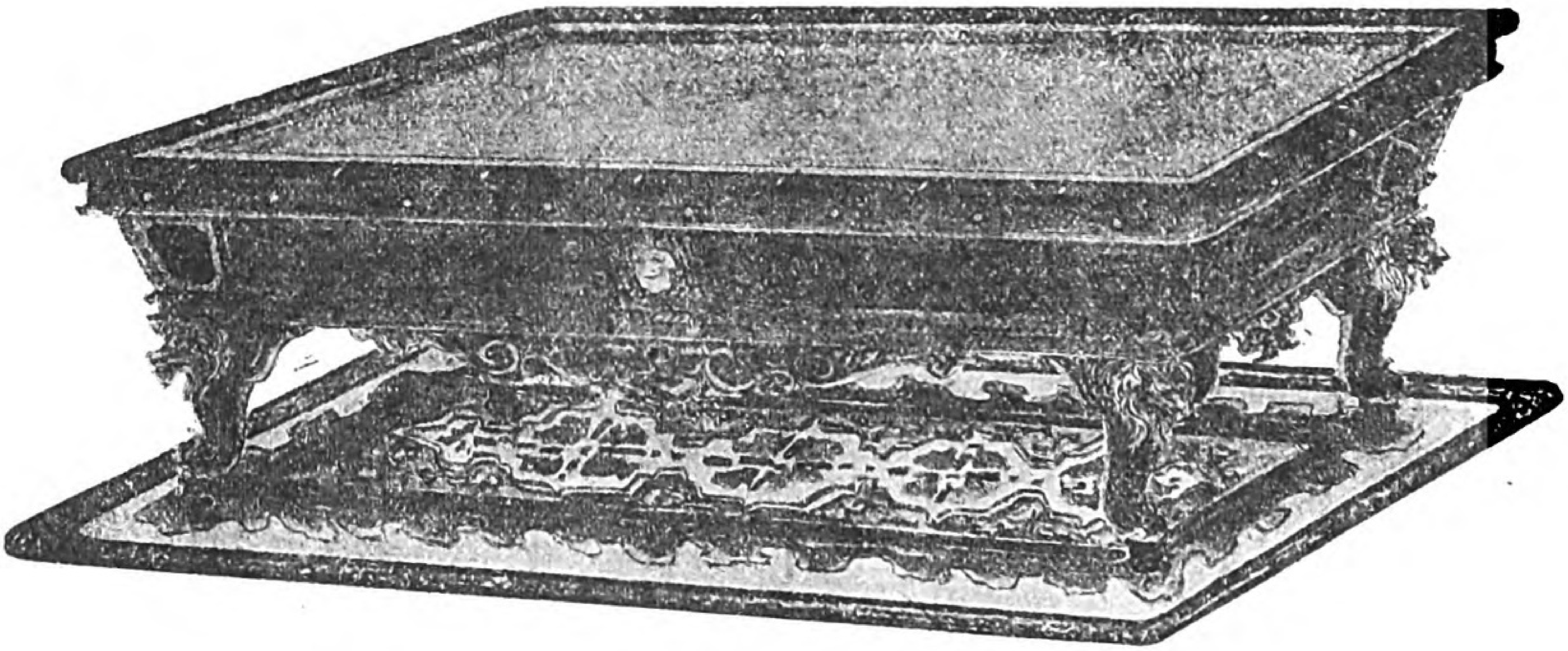
原稿紙壹千四百餘頁の大作を六號活字五百頁餘に縮刷す

定價壹圓廿錢
郵税八錢

發行所 神田區佐久間町四ノ二十三 （振替東京一二九五三 電話下谷三四一九） 植竹書院

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最新式玉突臺



玉突臺附屬品一式

御一報次第「カタログ」送呈仕候

製造販賣所

東京市京橋區鎗屋町一番地

中村商店玉突臺販賣所

電話京橋一九六七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

中古ピアノオルガン一覧表

品名	摘要	新價／定價	特價
獨逸イルムラ、ピアノ	横濱獨乙商館歸國に付大見切	定價八百圓	特價六百圓
獨逸ホーマイヤ、ピアノ	同	定價六百圓	特價四百五拾圓
西川三號ピアノ	某華族ピアノラと交換の爲め賣却希望	新價四百五拾圓	特價參百貳拾圓
プレヱルピアノ	某英國人所有の處不用ニ付賣却希望	新價六百圓	特價貳百圓
スポーアピアノ	某獨乙人歸國の爲め賣却ニ付委托	新價五百五拾圓	特價壹百八拾圓
松本第十號オルガン	某家所有ノ處ピアノ交換ニ付賣却希望	新價壹百拾圓	特價七拾五圓
松本十號オルガン		新價壹百拾圓	特價八拾八圓
ハモニユーム	某米國人所有ノ處不用ノ爲メ賣却希望	新價壹百六拾圓	特價五拾八圓
松本三號オルガン		新價參拾五圓	特價貳拾八圓
松本十二號オルガン		新價壹百五拾圓	特價壹百貳拾圓

東京銀座四丁目　**松本樂器合資會社**　振替口座一二五〇五

■平塚明氏新著

■反響叢書第二篇出づ!!

評論集 現代と婦人の生活

■四六版三百頁
■定價八十五錢
■郵稅八錢

婦人評論界の權威
生活改造の根本自覺

内容要目

□井ボーとその母
□職業的婦人
□婦人問題の現狀
□エレン、ケイ女史
□「婦人解放論」
□所謂婦人問題
□民衆と政府
□「火の娘を讀む」
□「炮烙の刑」
□森田草氏に
□赤城より
□兩親に
□「生活」記者に
□旅の七日間
□光を思ふ
□御宿より

●本書は氏が「圓窓より」以後の感想を輯錄せるもの、社會問題並に思想問題として多年世界文明の懸案たる婦人解放の自由を絕叫せるもの也。氏が深邃なる思索と强烈なる主張とは、我國婦人生活の現狀に鑑みて味讀すべく、傾聽すべし。

東京本鄉元町
日月社
振替東京二八九一四

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

近代思想の先驅者

創造

清新な純文藝雜誌

毎月一回一日發行
定價一册金廿五錢

十二月號

東京小石川老松町
四十四番地創造社

路傍のベンチより（感想）……相馬御風
途上（小說）……秋庭俊彦
戸の外まで（小說）……美川康
ネオ・ストイシズム（評論）……加藤朝鳥
黎明と鳥（詩）……人見東明
■本年の文壇……同人の眞摯なる感想數篇
■挿繪數葉……近代バレーの代表的藝術
齒朶の葉（詩）……福田夕咲
ニイチエとブレエク（評論）……立石美和
K子に與へた手紙（小說）：伊藤彌太
黑い血の果（戲曲）……加藤一夫
「戀こころ」の讀者に贈る書（感想）……人見東明

今春以來出版の噂ありて喝采されし人見東明氏の最近の作百十數篇を收めたる詩集「戀こころ」は愈々出版せり。內容及び體裁の美なること太陽の如く燦として輝けり。

戀こころ

定價八十錢

著者が此の作をなせる當時の運命、生活思想及び自作に就ける感想三十餘頁を序文とし加ふるに齋藤與里木村莊八兩氏の裝畫を以てせる近來得難き快著なり。

發行所　牛込矢來町三番地　振替東京一三八四　合資會社　金風社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

十二月號出ヅ

毎月一回
一日發行

反響

定價廿錢
郵税壹錢

内容要目

■對話――日記の斷片　小宮豐隆
■軍國の龜鑑（脚本）　久米正雄
■足なき田之助（戯曲）　草田杜太郎
■詩壇時評　山宮允
■堺事件の喜劇　田村松魚
■最近の雜感　德田秋江
■再び保證金の問題について　馬場孤蝶
■繪畫の怪傾向を評す　青柳有美
■十月（詩）　柳澤健
■書翰　長尾素枝
■途上の秋（句）　三島霞郎
■貧しき榮一の秋（歌）　奥榮一
■信條（評論）　生田長江
■小宮豐隆氏の「中村吉右衛門論」　青森徴風
■骸骨をいだいて（小説）　上野葉
■死の誘惑と生命力の爭鬪（評論）　若月紫蘭
■詩　與謝野晶子
■編輯の後　生田長江

■發賣所　東京本郷元町二の四七　振替東京二八九一四番　日月社

東京市本郷區根津西須賀町二番地　反響社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

GD. RESTAURANT,
TOYOKEN,
ONLY THE LEADER IN THIS LINE,
MURAI BUILDING,
NIHOMBASHI, TOKYO.

異國情調(エキゾチックアトモスフィヤ)の漂ふ
グランド、レストーラン
東洋軒
日本橋々畔村井
ビルディング地下室

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V.4
no.11

53 126CO XL 404
04/09 30016-162

University of Colorado at Boulder
U18304 6746474

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER